BPW　CSW インターン派遣事業

第 68 回　国連女性の地位委員会
インターン報告書

2024 年 3 月

認定 NPO 法人　日本ＢＰＷ連合会

目　　次

巻頭挨拶　認定 NPO 法人日本 BPW 連合会理事長　名取はにわ　1

第 68 回 国連女性の地位委員会（CSW68）について　連合会副理事長　布柴靖枝　2

第 21 回 CSW68 インターン派遣事業について
プロジェクトリーダー・連合会監事　中山由美子　4

インターン派遣事業でエンパワーされ、エンパワーする　連合会専務理事　藤田典子　5

BPW のパラレルイベントに参加して　連合会会員　神原文子　6

CSW68 インターン派遣事業への支援について　連合会会計　佐藤道子　8

インターンによる報告

1.インターン活動全体について　9

1-1. はじめに・インターンの紹介　9

1-2. CSW インターンシップ概要　10

1-3. 特別活動　11

1-3-1. IFBPW リーダーズサミット／クレアファルチャーディナー　11

1-3-2. コンサルテーション・デー（オンライン開催）　12

1-3-3. CSW68 開会式　13

1-3-4. 住友化学アメリカ訪問　14

1-3-5. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング 1 回目　15

1-3-6. ユース代表のインタラクティブ・ダイアログ　15

1-3-7. BPW Darwing, Australia とのツイニング　19

1-3-8. UNDP 職員・川瀬友裕氏・横井裕子氏 訪問　19

1-3-9. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング ２回目　20

1-4. 現地でのスケジュール　20

1-5. 各インターンが参加したイベント　21

2. 主催したパラレルイベントについて　30

2-1. パラレルイベントの概要　30

2-2. パラレルイベントの舞台裏－企画のプロセス　31

2-3. 当日の様子　34

3. インターン個人報告　36

3-1. 宇佐　碧　36

3-2. 鈴木　りゆか　38

3-3. 丸井　萌　42

4. 現地情報について　45

2024 年 CSW69 インターン派遣募集要項　巻末

※表紙の CSW68 画像の出典：UN Women 日本事務所 Facebook ページ
（https://www.facebook.com/share/p/sDVAFhSwg8o7dr7L/）

日本BPW連合会　CSW68インターン派遣事業について

認定NPO法人日本BPW連合会理事長　名取 はにわ

本法人は、1951年に創立され、2017年11月7日に東京都から認定を受けて活動しているNPO法人である。BPWのBはBusiness、PはProfessional、WはWomen。働く女性、働いてきた女性、これから働く女性達を応援する提言型NGOである。

国際的にはBPW International（以下「IFBPW」という。）の傘下団体であり、IFBPWは国連経済社会理事会に対して総合協議資格を有する国連NGOである。

日本BPW連合会も2023年7月25日付けで国連の特殊協議資格を取得し、国連NGOとなった。これにより、以下の権利を得ることとなった。

① ニューヨーク国連本部、ジュネーブとウィーン国連事務所に公式代表を指名する資格
② ECOSOCおよびその補助機関（CSWなどの機能委員会等）、人権理事会、総会、他の国連政府間機関の公式会合の傍聴
③ ECOSOCへ文書による提言
④ ECOSOCにおける口頭発表
⑤ ECOSOCおよび補助機関との協議
⑥ 国連施設（会議室や図書館・国連文書サービスへのアクセスなど）の利用

何よりもうれしいことは、国連本部入館証（Ground pass／グラウンドパス）を独自に取得できること。昨年までは複数の国連NGOから苦労してパスを分けてもらっていたのだから。

インターンは宇佐碧さん、鈴木りゆかさん、丸井萌さんの3人である。鈴木りゆかさんは日本政府代表団のユース代表に選任された。日本BPW連合会初の快挙である。

会員たちはCSWに先立ってIFBPWが開催したリーダーズサミットとクレアファルチャーディナーに参加した。

また、昨年に引き続いて、フィッシュファミリー財団創設者のフィッシュ・東光・厚子さんから「平松昌子メモリアル基金」としてインターン派遣事業が補助を受けた。3年期限の2年目である。

インターンたちは母子家庭の貧困問題をテーマとして、パラレルイベントをリモートで開催し、社会学者の神原文子さん（元神戸学院大学教授）の講演をもとに議論を深めた。自腹で同行してくださった神原さん、本当にありがとうございました！

また、インターンに同行し、国連、IFBPW、日本政府、日本企業の要人と面談する機会を準備した中山由美子連合会監事兼CSWインターン派遣プロジェクトリーダー、布柴靖枝副理事長、藤田典子専務理事のご尽力を讃えたいと思う。

第68回 国連女性の地位委員会（CSW68）について

認定NPO法人日本BPW連合会副理事長　布柴 靖枝

CSWとは、国連経済社会理事会（ECOSOC）の機能委員会の一つで、1946 年 6 月に設置された女性の地位向上、ジェンダー平等に向けて、経済社会理事会に勧告、報告、提案などを行っている機関である。CSWでの合意文書を受けて経済社会理事会は、さらに国連の最高議決機関である国連総会（第 3 委員会）に勧告を行っている。ちなみに BPW International は、発足時から総合協議資格もつ歴史のある国際 NGO 団体である。さらに、昨年、日本 BPW 連合会は、独自で国連 ECOSOC の厳しい審査を経て、特殊協議資格を取得することができた。それにより、CSW や ECOSOC を通して、直接、国連に意見を言える立場になった。これは、私たちの声を国連の決議に反映することがさらにパワフルにできるようになったことを意味し、ジェンダー平等社会の実現に向けての国内外におけるアドボカシー活動の大きな足掛かりと権利を得たことになる。

さて、今年、第68回目を迎えた国連の女性の地位委員会（CSW68）は、3月11日から22日の日程でNYの国連本部で開催された。今回は、約5000名のNGOの参加者と1000を超えるサイドイベントとパラレルイベントが開催され、COVID-19 を経て、大変熱気のある対面開催となった。イベントは、対面とオンライン、もしくはハイブリッドでも可能になったために大幅な参加者数の増加につながった。また、CSW の本会議には、2 名の国家元首、3名の副総裁、100 名以上の閣僚が出席した。このように CSW は、今や国連総会（UNGA）について大きい会合になっており、特に女性問題を取り扱う国連の会合では最大級のものになっている。

今回は、フィリピンのラグダメオ氏が議長となり、今回の優先テーマである「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速」と、レビューテーマ「ジェンダー平等及び女性と女児のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス及び持続可能なインフラへのアクセス（CSW63の優先テーマ）」が討議された。

今、世界の女性の10.3%が極貧状態（extreme poverty）にあり、2030年までに貧困をなくし SDGs を達成するには、多次元的な貧困にメスを入れ、今の 26 倍の速さで対応する必要があることが強調されていた。また、ジェンダー不平等に対処する政策やプログラムに投資し、女性の主体性とリーダーシップを高め、政府が適正な教育と家族計画、公正で平等な同一賃金の実現、社会的給付の拡大を優先すれば、1 億人以上の女性と女児が貧困から脱却できること。また、ケアサービスへの投資を通じて、2035 年までに約 3 億の雇用を創出することができ、雇用におけるジェンダー格差を解消すれば、一人当たりの国内総生産（GDP）を 20%押し上げることができることが示された。UN Women のシマ・サミ・バフース事務局長は閉会挨拶で「より大きな金融包摂、社会保護への支出の増加、安定性の向上、機会均等、そしてあらゆる女性と女児のための大きな希望、権利、自由のある世界を描く青写真を提示することができた」と感謝の意を述べていた。

昨年の CSW67 では、合意結論がでるまでに閉会予定時間を大幅に超過し、翌日の午前 3 時半近くまでかかってしまった反省を踏まえ、今回の CSW68 は、タイムマネージメントが厳しくなり、全体的に各国のステートメントや意見交換も含めてコンパクトになった印象をもった。また合意文書の項目もCSW67では93項目であったものが、CSW68では57項目と前回に比してかなり少なくなったのも特長といえよう。

【合意結論の要旨】

優先テーマに従って、前年秋に専門家により検討された原案「ゼロドラフト」をもとに検討が始められ、最終的には57項目まで拡大したものが最終合意文書として採択された。詳細はUN Womenのホームページ（右QRコード）を参照していただきたい。気候変動、COVID-19などの影響でさらにジェンダー格差が生じている現状を踏まえ、特に周縁化され、声をあげられない立場にある女児・女性が直面している多元的貧困解消にむけて、資金調達やデータや統計の強化、ジェンダーに対応した社会経済の実施と公共政策の強化を含む包括的なアプローチが強く求められることが繰り返し述べられている。また、子どもから高齢者まで年代に関係なく、取り組んでいくことの重要性も盛り込まれた。なかでも、女性を支援する団体への資金提供を積極的に行うことが盛り込まれたことは資金調達に苦労している多くの女性 NGO 団体としては心強い成果といえよう。

来年、CSW69 はいよいよ、北京宣言及び行動綱領から 30 年という節目に立ち、大掛かりな振り返り作業になる。議長国は立候補したサウジアラビアが担当すると聞いている。

さて、インターンの活躍の詳細については他に譲ることになるが、CSW インターン派遣事業も 21 年目に入り、応募してくるヤングの意識も語学力も年々、高くなっていることを実感している。今回は、日本政府代表団ユース代表として日本 BPW 連合会が推薦したインターンの鈴木りゆかさんが選ばれ、D（Delegate）パス（国連本部「代表」入館証）を得て、Youth Interactive Dialogue（ヤング公式会合）で素晴らしいステートメントを発表してくれたことも特筆すべきことである。BPWインターンの活動は実に目覚ましかった。

また、今回初めての試みとして、CSW68 の「ゼロドラフト」へのインプットも藤田典子専務理事を中心に神原文子社会学者の助言を得て、日本政府（外務省）に提出できたことも新たな成果である。

本報告書は、CSW68 での体験を通して、ヤングが何を見、何を感じたのかを示す貴重な資料であり、ここに報告書として共有できることを大変嬉しく思っている。本報告書の編集にあたり、ご尽力いただいたヤング委員長の工藤遥さんにも感謝申し上げたい。

第 21 回 CSW68 インターン派遣事業について

CSW68 インターン派遣事業 プロジェクトリーダー
認定 NPO 法人日本 BPW 連合会監事　中山 由美子

◆インターン応募者について

2020 年からの COVID-19 蔓延で、CSW64・65・66 では渡航しなかったが、昨年の CSW67 以来、ハイブリッドを含む対面開催が再開し、今回も昨年同様に現地（ニューヨーク）に派遣することができた。

本年の応募者は 3 名で、それぞれ海外留学経験があり、ZOOM での面接も、日本国外のそれぞれの滞在先から行った。このため、面接の日程は、時差の関係で 3 人一度に実施する調整が難しく、9 月 26 日と 27 日の 2 日間に分けて行った。

面接参加者：（敬称略）

応募者：応募受理順

1）丸井 萌　　：神戸大学 医学部 医学科 4 年
2）鈴木 りゆか：国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 4 年
3）宇井 碧　　：中央大学 総合政策学部 国際政策文化学科 4 年

BPW メンバー（工藤遥、佐藤道子、中山由美子、布柴靖枝、林智意、藤田典子）

応募時の A4 サイズ 1 枚の応募動機（邦文と英文）資料の内容について、面接時に改めて自己紹介を兼ねて、口頭（英語）で説明を受けたのち、メンバーから簡単な質問を行った。

3 名ともに、積極的な応募動機があり、国連を経験することで、次のアクションに結び付ける意欲が認められ、派遣するに足ることを確認したのち、もし派遣された場合の事後の対応（報告書の作成、NWEC（国立女性教育会館）フォーラムでの発表、BPW イベントへの参加など）の諒解を得た。

終了後、メンバー全員一致で、3 名全員の派遣を決定し、インターンに通知した。

なお、インターン応募のきっかけは、丸井さんは、中学校時代に藤田典子専務理事が家庭教師をしたご縁、鈴木さんは、クオータ制を推進する会（Q の会）で佐藤道子会計からの声掛け、宇佐さんは、CSW67 インターンの奥山千波さんからの情報であった。

派遣決定後は、CSW68 の事前勉強会への参加など、積極的に情報を共有し、また、パラレルイベント開催に向けて精力的に活動したことは、他頁に記載の通りである。さらに IFBPW 主催の事前イベントに参加する必要上、3 名全員が日本 BPW 連合会個人会員として、加入したことも追記しておく。

インターン派遣事業でエンパワーされ、エンパワーする

認定NPO法人日本BPW連合会専務理事　藤田 典子

日本 BPW 連合会が国連女性の地位委員会（CSW）インターン派遣事業を開始してから 20 年が経った。第 1 期は CSW48 への派遣で、故平松昌子前理事長と布柴元国際委員長が、3 人のインターンを連れて、ニューヨークの国連本部ビルに赴いた。その時のインターンの 1 人が私だった。当時大学院進学直前の私は、国際社会での国連の役割に関心を抱いていた。会期を経てジェンダーの課題に引き寄せられ、修士課程では CSW48 優先テーマ「ジェンダー平等における男性と父親の役割」から知見を得て、男性学の研究をした。それ以後、ジェンダーの課題の追究はライフワークである。

今回、私は、CSW68 へ、インターン派遣事業プロジェクトチームメンバーのパラレルイベント実施サポーターとして参加した（詳細報告は当法人の年次会報 55 号を参照）。実はもう 1 つ重要な目的があった。BPW 連合会事務局長として、国連本部年間入館証を取得することだった。2023 年に国連経済社会理事会（ECOSOC）の特殊協議資格取得後はじめての任務だった。今やインターン派遣事業は、国連 NGO となった当法人の主力事業の 1 つであり、より多くの資源を当事業に投じる必要性と、その重要性を実感した。

CSW68 インターンの宇佐碧さん、鈴木りゆかさん、丸井萌さんは、知的で聡明、心優しさと強さを兼ね備えた女性たちだった。パラレルイベントの企画・運営は、テーマについての学びに加え、多方面での取り組みが求められた。3 人は役割を分担し、粘り強く丁寧に対応していた。その姿に触れ、私もサポーター役を担うことを誇りに思った。3 人がそれぞれ異なる分野で今後も活躍していくことを心から応援している。

宿泊先で、派遣事業プロジェクトチームリーダーの中山由美子さんと、パラレルイベントの講師を務めてくださり、その後 BPW 神戸クラブに入会された神原文子さんとご一緒したことも、大変尊い経験であった。神原さんの手料理の美味しさに感動しながら、日本社会の課題や仕事での困難について語り合った経験は、宝物である。

CSW68 会期直前に開催の BPW International のリーダーズサミットに参加した経験も貴重だった（詳細報告は当法人の年次会報 55 号を要参照）。インターンの宇佐さんと鈴木さんの積極的な姿勢に感化され、私も連合会事務局長という立場で主体的に参画した。

会期中の唯一の余暇での経験にも触れたい。3 月 10 日（日）午後、ロウワーマンハッタンの 9.11 メモリアルを訪問した。2001 年 9 月 11 日の米同時多発テロそのもの、およびその事件に居合わせた経験の意味づけ作業に、ようやくけりがついた。鈴木さんが同行してくれて、終始、会話を弾ませたのも思い出深い。

3 月 14 日（木）、パラレルイベント終了直後に学会会場のシアトルに飛び、翌日は本務の研究報告を実施した。全てをやり遂げた充実感は得たが、CSW 参加の面では不完全燃焼だった。滞在期間と滞在中の時間的制限から、会議の進行把握に努めることが難しかった。

今回の機会を通じて、自分がエンパワーされる側から人をエンパワーし、組織に貢献する立場になったと実感した。BPW インターン派遣事業と当事業を 20 年間つないでくださっている方々、インターンの 3 人、神原さん、フィッシュファミリー財団に心より感謝する。

BPWのパラレルイベントに参加して

認定NPO法人日本BPW連合会会員（神戸クラブ）　神原 文子

2023年12月初旬、知人を介して、突然に、日本BPW連合会が、2024年3月に、国連での「女性の地位委員会（CSW68）」の会期中に開催するパラレルイベントで、神原に、「母子家庭の経済的貧困」について話をしてもらえないかという打診があった。

「女性の地位委員会」って聞いたことはあるけれど、詳しくは知らなかった。また、日本BPW連合会（以下、BPW）という団体名もはじめて耳にした。

それでも、パラレルイベントの開催主旨として、「日本のシングルマザーとその子どもたちが直面する経済的困難について発信し、CSW68の決議案に対するアドボカシーに繋げていくことを目的とし、当該に関する議論事項について各国からの参加者と対話を重ね、グローバルな観点をもって、より効果的な制度・政策設計を検討する場を構築したい」と記されていて、とりわけ、「CSW68の決議案に対するアドボカシーに繋げていく」という目途に、私はなんだかワクワク感を覚えたのだった。多くの学術学会大会のように、会員の研究発表があって、ディスカッションをして終わり、ではなさそうだ、と。

スピーチのテーマについては、お引き受けしても何とかなりそうに思えた。ただ、正直なところ、英語でプレゼン用の資料を作成することや英語でスピーチすることには不安があった。しかし、それらの不安よりも、ニューヨークに行くことができる、しかも、国連本部へ行くことができるという期待感がはるかに勝って、後先を考えないで、えいやっ！と、お引き受けしたのだった。“旅費、宿泊代は自腹である”ということも承知のうえで。

イベントの主催者である3名のインターンの大学生たち、BPWの役員の方々、そして神原とで、パラレルイベントの進め方、プレゼンの内容などについて、ニューヨークに行くまで、ZOOMで打ち合わせを重ねた。インターンの方々から、毎回、非常に丁寧で謙虚な表現で、なおかつ、とても鋭く的確な質問が寄せられて、資料を作成しながら大いに刺激を受けた。また、事務局長の藤田典子さんは、プレゼン資料の英語表現のチェックや資料をより分かりやすくするためのアイデアの提供など、本当に頼もしい支援をしてくださった。

国連本部入館証（グラウンドパス）の申請をして、しばらくして、CSWの国連機関の代表者名で、神原の登録を承認したという文書が届いた時は、これで国連へ行けるのだと実感が湧いたのだった。

神原は、3月10日夜にニューヨークに到着し、3月20日まで滞在した。

パラレルイベントは、3月14日の午前8時30分から9時30分まで、国連本部から少し離れた会場で開催された。神原のプレゼンの後、5名程度のグループに分かれて意見交換をし、その後、質疑応答があった。英語力不足から、十分に質問に答えることができないというもどかしさを実感しながらも、1時間のイベントは、あっという間に終わった。このイベントにおいて、ひとり親女性の貧困のメカニズムと貧困の解決を阻んでいる要因について理解を深め、ひとり親女性の支援において、エンパワーメントを支援することの重要性について共有し合うことはできたように思う。

※講演録　(https://www.bpw-japan.jp/japanese/dl/csw68transcript.pdf)

さて、ここからは、CSW68 にはじめて参加し、極めて限られた経験をしたにすぎないが、気づいた点について、率直な思いを述べさせていただきたい。

第 1 に、CSW68 の優先テーマ、「ジェンダーの視点から貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速」の実効性についてである。3 月 13 日の夕方に、国連日本政府代表部において、CSW68 の日本代表の大崎麻子さん、外務省、文部科学省、内閣府それぞれの男女共同参画担当者と、民間団体のメンバーとのブリーフィングがあった。その折に、日本政府の方針が説明された。2030 年までに女性役員率を 30%以上にするというのが日本政府の目標とのこと。正直なところ、私自身は、世界の中には、2024 年時点ですでに 30%を超えている国々がある、しかも、ジェンダー平等を目指すというのなら、女性役員率 50%を掲げるべきではないかと疑問を抱いた。2030 年までに女性役員比率を 30%以上とするとの数値目標は、一日本人女性としてなんと恥ずかしいことかとも思った。そこで、質問の時間に、この点について質問をさせていただいたところ、2030 年に 30%を達成することさえ危ぶまれているのに、とても 50%という目標を掲げることはできないといった主旨の回答があった。（みなさん、日本をジェンダー平等の社会にする気が、本当にあるのですか？）、と、内心、思わざるを得なかった。

第 2 に、CSW68 の周知や報道についてである。3 月 11 日から 22 日まで国連本部で開催される CSW68 について、優先課題について、22 日の最終日に取りまとめられた合意文書について、また、日本から参加したユースたちの活動についてなど、おそらく、日本ではまったく報道されていなかった模様である。このこととも関連して、CSW の存在や取組については、今年 68 回目だというのに、日本の社会では、一部の政府関係者、一部の民間団体関係者以外には、ほとんど知られていないのではないだろうか。だとすれば、非常に残念なことである。政府にせよ民間団体にせよ、より積極的な情報発信を期待したい。

第 3 に、今回、機会があって、ニューヨークまで行ったことで、日本から参加している民間団体のメンバーと知り合うことができた。どなたもが、ジェンダー平等の実現に向けてのこれまでの活動や熱い思いを語ってくださった。でも、なぜ日本で裾野が広がっていないのかと疑問を抱いた。1 つは、いずれの団体も、CSW に参加することが大きな目標に掲げられており、そのため自ずと、英語力がメンバーシップの条件になる。日本の学生たちの英語力の底上げと学生たちへの資金援助が裾野を広げるための喫緊の課題と言えそうだ。

最後に、第 4 として、今回、BPW のインターンに選ばれた 3 名の女子学生のことを特記しておきたい。3 名の方々はいずれも留学経験があり、とてもきれいで流暢な英語を話していた。のみならず、3 名とも、自分の意見を自分の言葉ではっきりと表現することができて、しかも、言葉遣いが丁寧で、立ち居振る舞いも颯爽としていて、本当に素敵で格好よかった。彼女たちのような女子学生は、日本の女子学生たちの中では、ほんの一握りかもしれないが、このような女子学生が育っているというのは、大きな希望に思えた。

来年の CSW69 では、もっと多くの国の参加者とつながり、意見交換をしたいものだ。

CSW68インターン派遣事業への支援について

認定NPO法人日本BPW連合会会計　佐藤 道子

【平松昌子メモリアル基金】

フィッシュファミリー財団のフィッシュ・東光・厚子さんによる「平松昌子メモリアル基金」は、CSW インターン派遣事業が「アクションにつながり、最長で1年の短期的成果・インパクトを達成すること」という条件のもと、この派遣事業資金として年 100 万円の補助を 2023 年から 2025 年の 3 年間継続する」というものである。

CSW68のインターン派遣募集において、昨年に引き続きCSWパラレルイベントの開催と、報告書の作成、帰国後に NWEC（国立女性教育会館）フォーラムに参加し CSW インターン派遣の成果を踏まえたイベントを実施することを、補助の条件とした。ただし、2024 年の NWEC（国立女性教育会館）フォーラムでは一般公募の出展がなくなったことから、報告会については別途検討することになっている。

この「平松昌子メモリアル基金」は、使途特定寄附として、CSW 関連イベントにかかる費用のほか、CSW インターン派遣に伴う渡航費用・宿泊費の補助に充当している。

使途特定寄附については、認定 NPO 法人日本 BPW 連合会 事業報告書に掲載し東京都へ提出している。

日本BPW連合会は、国連CSWインターン派遣事業を開始した2003年当初から、事業の創設者である故・平松昌子前理事長に「派遣に伴う渡航費の調達も含めて、主体的に国連女性の地位委員会（CSW）に参加できる方を派遣したい」との強い思いがあり、BPW 連合会からのインターンへの補助は、海外旅行保険や、BPW International との交流への参加費など、最小限にとどめてきた。しかし、昨今の国際的な物価高や為替変動リスクから、インターンの負担は大きくなっていた。

フィッシュ・東光・厚子さんの故平松昌子前理事長への厚い信頼とご理解により、このような形で支援が実現したことを深く感謝するとともに、支援を享受したインターンが今後も大きな成果を上げることを祈願している。

パラレルイベントの様子

インターンによる報告

I. インターン活動全体について

I-1. はじめに

この度は、第 68 回国連女性の地位委員会（CSW68）にインターンとして参加させていただきまして、誠にありがとうございました。新型コロナウイルスのパンデミック以降 2 回目となる現地派遣でもあり、インターン一同、ニューヨークの国連本部に出向けることを心待ちにしておりました。渡航前から滞在中にかけて、日本 BPW 連合会のインターンとして、パラレルイベントの企画、運営・実施に従事させていただきました。初めての経験で不慣れなことも多々ありましたが、当会の皆様をはじめとし、大変多くの方々のご支援の下、無事に CSW68 でのインターン活動を終えることができました。お力添えいただきました関係者の皆様お一人おひとりに心より御礼申し上げます。以下では、インターンの現地での経験、そこから得た学び、抱いた想いや感情、そして印象的な出来事などを記し、ニューヨーク滞在中の様子をお伝えしたく存じます。

本派遣を通して、ジェンダーにかかわる課題に取り組むことの重要性を再確認したと同時に、今後のキャリア形成につながる貴重な邂逅を果たすことができました。今後も BPW での活動や各々の道でそれぞれの認識の世界を広げ深めてまいりますので、引き続きご指導ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

UN CSW68 インターン一同

インターン名簿（参加時の所属）

宇佐 碧（うさ みどり）
中央大学 総合政策学部 国際政策文化学科　4 年

鈴木 りゆか（すずき りゆか）
国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科　4 年

丸井 萌（まるい もえ）
神戸大学 医学部 医学科　4 年

国連エントランス前にて記念写真
左から宇佐、丸井、鈴木

1-2. CSWインターンシップ概要

報告：丸井

CSW（Commission on the Status of Women）は国連経済社会理事会（ECOSOC）の機能委員会の一つであり、ジェンダー平等の推進と女性のエンパワーメントを専門とした組織である。ECOSOC の機能委員会として、1946 年 6 月 21 日の国連経済社会理事会決議により設立された。女性の権利の促進、女性の生活実態の文書化、そしてジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関する国際基準の形成に重要な役割を果たしている。

2024年3月11日から22日の間に行われた年次総会における優先テーマは「Accelerating the achievement of gender equality and the empowerment of all women and girls by addressing poverty and strengthening institutions and financing with a gender perspective（ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速）」、レビューテーマは「Social protection systems, access to public services and sustainable infrastructure for gender equality and the empowerment of women and girls（ジェンダー平等及び女性と女児のエンパワーメントのための社会保護システム、公共サービス及び持続可能なインフラストラクチャーへのアクセス（第63回CSW合意結論））」であった。

会期中は NGO-CSW フォーラムが同時開催され、世界中の市民団体が参加し、イベントを企画する。サイドイベントは各国の国連代表政府代表部や国連機関によって国連本部ビル内で行われる。パラレルイベントは NGO や市民団体により主催され、国連の周辺施設で開催される。これらのイベントは基本的に各々の団体が優先テーマに沿った形で企画をし、行われる。

今回、日本 BPW 連合会のインターンとして、「Economic challenges among single-parenting mothers and their children in Japan（日本における子づれシングルの経済的困難について）」というテーマでパラレルイベントの企画、主催を行った。さらに、各国から集まった NGO 団体、及び政府代表団の主催するサイドイベント、パラレルイベントへ参加した。

その他、CSWの事業や開催の目的としては以下があげられる。

1. 政策立案と監視
   - 女性の地位や平等に関する国際的な政策の立案と監視
   - ジェンダー平等のための新たな戦略や方針の開発
2. 議論と交流
   - 女性の地位や権利に関する世界中の専門家、政府代表、NGO が集まる重要な議論の場を提供する
   - 議論や情報交換を通して、国際的なネットワークを構築し、ベストプラクティスの共有を促進する
3. 報告書の作成
   - ジェンダー平等や女性の地位に関する報告書を作成し、国際社会に提出する
   - 女性の地位に関する進展や課題を明らかにし、改善に向けた提言を行う

4. イベントや会議の開催

- 定期的なイベントや会議を開催し、女性の権利と地位に関する様々なテーマに焦点を当てる
- サイドイベントや専門家パネル、ワークショップなどを通じて、特定の問題について深く掘り下げる場を提供する

5. 教育と啓発

- ジェンダー平等や女性の権利に関する教育プログラムや啓発活動を実施し、意識を高める取り組みを推進する
- 若者や学生を対象にした啓発活動やキャンペーンを通じて、次世代のリーダーシップの育成に寄与する

1-3. 特別活動

1-3-1. IFBPW リーダーズサミット／クレアファルチャーディナー

報告：鈴木

3 月 8 日（金）、9 日（土）にハーモニークラブ、ニューヨークにて開催された BPW International（以下 IFBPW）のリーダーズサミットでは、世界各国から集まった BPW のメンバーによって、IFBPW に関する情報共有がなされた。具体的には、BPW の組織としての機能的役割や歴史などをはじめとした基本的な情報や、各国・地域での活動報告、さらには現状や課題、今後の展望など多岐にわたる議題について活発な話し合いが展開された。地域毎に分かれて行われるディスカッションでは、アジア太平洋地域のグループに参加し、各国の活動の実施報告を行ったのち、その実施状況を全体へ共有した。そして、テーマ毎に分かれて行われるディスカッションでは、当会のインターンは事業拡大に向けたソーシャルメディアの効果的な活用方法について、他国・地域からのメンバーと議論を重ねた。いわゆる「デジタルネイティブ世代」としての見解や意識についての発言が求められ、国籍や世代の垣根を超えた立体的なディスカッションを展開することができた。全体を通して、各々の持ち場でジェンダーにかかる課題の是正に向けて、粘り強く取り組むパワフルな方々にお目にかかることができ、大変貴重な機会となった。

アジア太平洋地域のメンバーとの記念写真

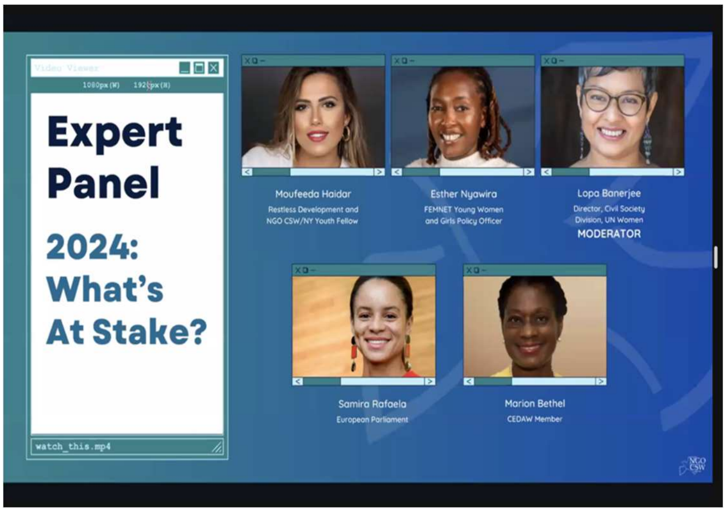
SNS の効果的な利用についての発表

8日（金）の夜には、各国の代表としてCSWに参加するBPWのメンバーを祝福し合い、親睦を深めるために開催されるクレアファルチャーディナーに参加した。メンバー同士、互いに激励し合い、属性の枠組みを超えた親睦を果たした。会長や代表役員をはじめとして、各国・地域から集まった IFBPW のメンバーと交流し、ネットワークを広げる絶好の機会であった。テーブル席では、BPW での活動のみならず、キャリアや個人の活動に関する貴重なお話を伺うことができ、大変良い刺激を受けた。

1-3-2. コンサルテーション・デー（オンライン開催）

報告：丸井

3月10日（日）のConsultation Dayはオンラインでの開催であった。今回のCSW68のテーマであるWomen's Povertyの観点から専門家より今回のCSWにおけるディスカッションの鍵となる点についてスピーチや挨拶が行われた。具体的には戦争の渦中にあるレバノンにおける女性としての人権の重要性、NGO レベルでの草の根の活動が政府による支援の不足を補完するということ、今年開催される欧州選挙において妊娠中絶を認めるか否かが論点となってくること、途上国でのジェンダー教育の不足など、様々な立場の専門家により、多岐に渡るスピーチおよび議論が行われた。共通して貧困、差別、不平等が鍵になるということが述べられた。



国連本部入館証については45st にあるパス会場で顔写真の撮影と受け取りが行われているが、初日の月曜日には非常に混雑しており長蛇の列であったので、日曜日または土曜日の閉館間近に行く方が良いと思われる。開会式の入場に際して配布される紙のパスもこの日に国連にて配布されていた。

ジェンダー問題という一つの課題に対して、多方面の専門家が自らの立場や置かれた背景から意見を発信している様子はとても新鮮で勉強になり、また今回のテーマは経済的貧困であったがその国や地域、政治的背景の異なる者の集まる国連という場に置いて、貧困を定義することは容易くないと感じた。

1-3-3. CSW68 開会式

報告：鈴木

3 月 11 日（月）に、CSW68 の開会式が対面とオンラインのハイブリッド形式で行われた。以下では、事務総長のアントニオ・グテーレスさん、UN Women の事務局長のサミ・バホスさん、マラウイのユース代表であるステイシーさん、そしてアフリカのグループを代表するウガンダのデリゲートのスピーチの中で、特に印象に残ったステートメントを紹介する。

グテーレスさんのスピーチでは、女性の基本的人権が見過ごされている状況が指摘され、意思決定のレベルにおいて女性のリーダーが必要であることが明確に示された。その他にも、男性の育児進出の推進の必要性、さらには女性が平等に権利を行使するためには、ジェンダーに基づく暴力の根絶が不可欠であると指摘された。そして、スピーチの締めくくりとして、国連のシニアマネジメントのレベルにおいて歴史上初めて完全なパリテ（男女同数・平等　50%）が実現できたことが共有され、国連機関がパリテを実現できるのであれば、各国の政府も実現可能であると力強いメッセージが発された。バホスさんのスピーチでは、ジェンダー平等にかかわる取組みは常に優先事項として認識されるべきであると主張された。とりわけ、フェミニズムにおいて草の根レベルでの活動を展開する団体の重要性が訴えられた。

事務総長のアントニオ・グテーレスさん

UN Women 事務局長のサミ・バホスさん

ステイシーさんは、児童婚や貧困により教育にアクセスできない多くの若者のために十分な施策を打つ必要があると訴えた。そして、今日におけるデジタル化の進展を鑑みて、エンジニアリングや理数系分野の学びを享受できる機会を提供するための努力が必要となると主張した。さらには、経済、政治、社会、健康にかかわる重要な意思決定がなされる場において若者の存在が見受けられない現状を指摘し、全体に向けて、包括的な意思決定の実現を目指して声を上げることを呼びかけていた。ウガンダのデリゲートの方は、植民地主義に基づく歴史的な不当な扱いは、紛れもなく、世界中の異なる国や地域、特にグローバルサウスにおける女性や少女が直面する貧困や周縁化、排斥、経済格差、不安定な社会状況などの問題に影響をもたらしていると力強く指摘した。

マラウイのユース代表 ステイシーさん

アフリカを代表するウガンダのデリゲート

現状や事実を包み隠さず率直に述べることが“過激”であると批判される閉塞的な環境ないし社会で生まれ育った自分にとって、個々人の発言が不文律のルールによって制限されることのないオープンな言論空間は非常に新鮮であった。現状に満足することなく、自らが正しいと信じることを粘り強く訴えつづける世界中の活動家の方々より、勇気づけられたと同時に、多大なるインスピレーションを受けた。

1-3-4. 住友化学アメリカ訪問

報告：丸井

スコット社長との写真

住友ケミカルアメリカを訪問する機会をいただき、スコット社長、立山氏よりお話いただいた。企業概要から日本企業の特性や米国での日本企業経営の難しさ、スコット社長の大切にされている理念、会社としてのサステイナビリティへの働きかけについてお話を伺った。会社が大事にしている通念を共有できるような仕事相手、企業を見つけ出すことが重要とお話されていたことが印象的であった。

日本の企業を海外で経営することの難しさや経営に当たって考えておられることを伺う機会は初めてで、とても刺激的な時間であった。

1-3-5. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング 1 回目

報告：宇佐

3 月 14 日（木）夕刻、国際連合日本政府代表団ビルにて政府代表団（大崎麻子代表、外務省や内閣府の方々等）と NGO 参加者による第 1 回 NGO ブリーフィングが行われた。はじめに政府団から自己紹介があり、その後 NGO 参加者から所属等を 1 名ずつ手短に述べたあと、政府団からの情報共有があった。具体的な内容としては、予算削減による会議時間の短縮、CSW 会期中の閣僚会合から合意結論（Agreed Conclusion）完成までの流れ・タイムスケジュール、日本政府団としての注力分野や発言事項等が説明された。その後 NGO 側からの質疑応答の時間に移り、「上場企業の女性役員比率目標」に対する意見交換など幅広い議論が行われた。また CSW におけるユース参加者参画の重要性も訴えられた。最後に外務省から改めて CSW 議論の流れや現地での注意事項等について情報共有があり、開始から 1 時間ほどの時間で終了した。

ブリーフィング参加に際しては、取りまとめの日本女性監視機構（JAWW）によって参加者名簿が事前に作成され、提出するという流れであった。当日は開始 35 分前に建物ロビーに集合し、NGO 参加者が揃っての入場であった。パスポート等 ID の持参が求められたほか、建物内は写真撮影禁止、ブリーフィング中も PC の使用を控えるよう指示等、セキュリティが厳重に保護されていた。

1-3-6. ユース代表のインタラクティブ・ダイアログ

報告：鈴木

3 月 14 日（木）にはユースのインタラクティブ・ダイアログが開催された。この対話型パネルは、国連加盟国のユースが任意で集い、CSW68 の優先テーマに関連する各々の経験や知見、教訓やグッド・プラクティスなどを議論する場としての機能を果たすものである。インタラクティブ・ダイアログでは、指定されたマイクのボタンを押し発言の意志表示をすることで、3 分間のステートメントを残す権限が議長より付与される。私は、今年の CSW にて外務省より政府代表団のユース代表を拝命したため、対話型パネルの場でステートメントを発表する決断を下した。スピーチの原稿と日本語訳は、以下のとおりである。

> Good afternoon, everyone,
>
> I am Riyuka Suzuki, the official youth delegate of the Government of Japan. I feel very honoured to have this opportunity today and to raise my voice as a youth representative.
>
> As I made my journey from Japan to New York, the word “representation” echoed in my mind, resonating with the core of our discussion here. In Japan, the

average age of our current cabinet members is 63.5 years old with the percentage of female policymakers in the House of Representatives only being 10.4 percent.

Though I stand here, delivering this speech, as a young female representative of my country. These figures paint a stark reality: our political landscape is characterised by primarily older, cis-gender and heterosexual men, who often fail to truly understand or represent the diverse needs and experiences of our current populace.

This is not just a problem in Japan. Across the globe, political elites cling to power, perpetuating a system of elitism, meritocracy, and academic exclusivity. Wealth, influence, and reputation are guarded, while ordinary citizens are left to bear the brunt of their decisions.

But let us ask ourselves: do these leaders truly understand the struggles of those they claim to represent? Can they empathise with the challenges faced by women and LGBTQI+ in poverty, marginalised communities, or those affected by colonial violence? The answer, all too often, is no.

Aligning with this year’ s priority theme of CSW, it is essential to devise economic aid measures that empower minorities to run for leadership positions. Simply advocating for increasing the number of minority groups is not enough to bring about the real change we need.

We gather here today for CSW68, faced with the task of advancing gender equality and empowerment. Yet, mere advocacy for increased representation is not enough. We must take tangible steps to empower minorities, provide economic support, and dismantle the barriers that hinder their participation in leadership roles.

I would like to use my privilege to insist on the necessity of the presence of my dear friends around the world, whose voices are silenced due to visa denials, conflicts, migration, financial hardships, disabilities, or caregiving responsibilities. As the true agents of change, they should be here in this dialogue today and at the centre of the decision-making table.

As I conclude my remarks, I leave you with a challenge: let us redefine ”representation” not as a mere token gesture, but as a catalyst for meaningful transformation. Let us bridge the gap between rhetoric and reality, and let our actions speak louder than words.

I thank you for your attention.

【以下、日本語訳】
みなさま、こんにちは

日本政府代表団のユース代表を拝命しました、鈴木りゆかです。
本日、このような機会をいただき、日本のユースの代表として声を上げられることを大変光栄に存じます。

日本からニューヨークへの旅の途中、この場における議論の核心でもある＜代表性＞という言葉について繰り返し思考を巡らせました。日本では、現在の閣僚の平均年齢は63.5歳であり、衆議院における女性の政策立案者の割合はわずか10.4%です。

私は今この場で、若い女性の＜代表＞としてこの演説をしていますが、これらの数字は日本におけるジェンダー課題の厳しい現実を顕著に表しています。私たちが目の当たりにする政治の風景は、主に高齢のシスジェンダー、異性愛者の男性によって占められており、その多くは、現代社会における多様なニーズや経験を真に理解し代表することができていません。

これは日本だけの問題ではありません。世界のあらゆる国や地域において、多くの政策エリートたちは権力に固執し、エリート主義、メリトクラシー（能力主義）、学歴主義の構造的なシステムを固定化し、再生産しつづけています。富、支配力、名声は守られつづけ、一般市民は政策エリートの決定の重荷を負わされている状況です。

私たちは、自問する必要があります：これらの政治指導者は本当に彼らが代表すると主張する人びとの苦悩を理解しているのでしょうか？彼らは、貧困や周縁化されたコミュニティに生きる女性やLGBTQI＋の人びとが直面する課題、残存する植民地主義の影響にさらされる人びとに共感できるのでしょうか？その答えは多くの場合、「いいえ」です。

今年のCSWの優先テーマに沿って、マイノリティが指導的地位に立候補することができる経済的支援策を考案することが不可欠です。単にマイノリティの代表者の数を増やすことを主張するだけでは、私たちが必要とする真の抜本的な変化をもたらすことはできません。

私たちは、ジェンダー平等とエンパワーメントを推進するためにここCSW68に集まっています。しかし、マイノリティの＜代表＞の増加を提唱するだけでは不十分です。私たちは、マイノリティに経済的支援を提供すること、リーダーシップの役割への参加を妨

げる障壁を取り除くこと、そして彼女ら彼らをエンパワーすることを果たすために、具体的な措置を講じることが求められています。

私は、CSW68 において発言をすることができるという自らの＜特権＞を利活用して、ビザの発給拒否、紛争、資金不足、障がい、ケア労働への従事により声を上げることができない世界中の親愛なる友人たちの存在の必要性を強調したく思います。真の変革の担い手である彼女ら彼らこそが、今日この対話型パネルに参加し、意思決定のテーブルの中心にいるべきです。

このスピーチを締めくくるにあたり、みなさまに＜挑戦＞を提示します：＜代表性＞を単なる形式ではなく、意味のある変革の促進要因として再定義しましょう。レトリック（実質を伴わない表現上の言葉）と現実の間のギャップを埋め、行動で示しましょう。

ご清聴ありがとうございました。

スピーチ発表中の様子（提供：UN Women）

他の加盟国のユース代表との記念写真

ユースのインタラクティブ・ダイアログ終了後、私のスピーチを聞いてくださった他の加盟国のユースをはじめとし、UN Women の職員の方、その場にいらした警備員の方など多くの方々が、私の席まで駆け寄り、スピーチの内容についての共感やお褒めのお言葉をくださった。属性の枠組みを超えて、スピーチの評価をいただくことができたのは、ひとえに、決められた枠組みの中で自由な発言の場を保障してくださった、外務省の皆様の広いお心があってこそのことであると認識している。この場をお借りして、外務省の皆様に感謝の気持ちを申し上げたい。また、過去から現在にかけて、女性やユースの発言の場の獲得に向けて、粘り強く声を上げ続けてくださった皆様お一人おひとりに心より感謝している。先人の方々がさまざまな障壁を乗り越えながら、必死な思いで前に進めてくださったジェンダー平等を守りつづけ、かつ更に公平なものへとしていけるよう、シスターフッドの仲間たちや想いを同じくする人たちと手を取り合いながら、これからも自らの持ち場で尽力する所存である。

1-3-7. BPW Darwing, Australiaとのツイニング

報告：宇佐

3月15日（金）NY時間21:00（日本時間3月16日（土）10：00）からZOOMにてBPW 東京クラブとオーストラリアのダーウィンクラブのツイニングイベントが行われた。

接続後は、両クラブ会長より挨拶があった後、メンバーの簡単な紹介、インターナショナルコレクトの朗読、インタープログラムの紹介と進んだ。次に CSW インターン経験者 2 名（奥山さん、家田さん）からプレゼンテーションがあり、昨年の CSW での様子の共有や学び、CSW 参加から 1 年が経ったうえで感じるプログラムの意義等が発表された。その後 CSW 参加中の神原さん、インターン 3 名（鈴木、丸井、宇佐）から現地の様子の共有・これまでのCSW68での活動を共有した。

ダーウィンクラブのメンバーからは「有意義なインタープロジェクトになる要素」についてや、昨年参加者への感想に対する質問、今回の CSW68 における注目テーマなど多くの質問があり、インターン事業自体にも評価する声が多く出るなど関心が集まっている事を感じた。

1-3-8. UNDP 職員・川瀬友裕氏・横井裕子氏 訪問

報告：宇佐

3月19日（火）、国連ビル目の前に位置するUNDP事務所にUNDP職員の川瀬友裕さん・横井裕子さんとの面会に伺った。川瀬さんは JICA からのご出向で UNDP にてご勤務されており、横井さんはインターンからUNDPでのキャリアを開始され、現在はコンサルタントとしてご勤務されている。お二人には、国際機関でのキャリア構築について、国際機関同士の連携・棲み分けなどについて、質問させていただいた。インターンからコンサルタントとしてのキャリア構築、出向としてのキャリア、近年のポストの獲得競争、また機関ごとの特徴等、実際にご勤務の方々にしか知り得ない情報を教えていただき、大変勉強になった。また特にジェンダー関連プロジェクトに携わられている横井さんに対しては、女性の権利向上に向けた案件の動きや日本政府との連携についても話し合われ、CSW68 での議論とも密接に関係する内容であった事から、大変勉強になった。

UNDPオフィス内、SDGsポスター前での記念撮影

1-3-9. 国連日本政府代表部 NGO ブリーフィング 2 回目

報告：丸井

3 月 19 日（火）に国際連合日本政府代表団ビルにて NGO と政府代表団の間の意見交換を行う機会がもたれた。時間が限られており、1 回目には質問全てに答えていただくことができなかったことから政府団側の提案により、質疑応答の時間が多く設けられた。NGO ユースでは各団体より代表が事前の打ち合わせを行い、質問の整理を行い質疑応答に挑んだ。まず、政府代表団の参加した CSW 総会や各サイドイベントの内容は省庁内で共有されているのか、についての質問があった。CSW に限らず、国際会議に出席した場合、各省庁に報告が行われており、その結果、女性版骨太の方針の参考にする場合もある。具体的には、気候変動とジェンダーのテーマに対して政策に盛りこみ、女性のチャレンジ賞の特別部門のテーマを気候変動にするなどの取り組みがあったという。二つ目に、ユースダイアログや代表スピーチは何らかの形でインプットが行われているのかという質問に対し、UN WebTV にて情報が公開されているという返答があった。さらに、CSW の取り組みに対してメディアでの報道などの情報共有がほとんど日本では見られないが政府側としていかにアウトプットを行っていくのか、という質問に対しては、CSW の知名度の向上や政策アドボカシーを戦略的に国内の文脈に落とし込んでいく努力は日本政府のみではなく、市民社会にも求められる。知名度の向上や合意結論を国内の政策に活かしていくことは NGO 団体と政府が協同して行っていくことが求められているとの回答があった。

今回の質疑応答では、CSW の内容が果たしてこれからの日本のジェンダー問題に還元されていくのか、という点に焦点を当てて行われた。国連や他の国際組織が形式上のもので終わるのではなく、政治・経済・市民社会の全ての側面から変革をもたらすには最後の質疑応答にあったように、政府と市民団体が協働できるシステム作り、意見交換の場を設けることが求められている。特に日本で生活をしていると、ジェンダー問題への人々の興味やメディアへの露出が極端に少ないように感じる。欧米の流れについていくのみではなく、今回のパラレルイベントでの一トピックでもあった日本に蔓延する労働市場でのジェンダー不平等といった背景を加味した、日本社会に合わせた解決策を考えていくことが求められている。

1-4. 現地でのスケジュール

作成：鈴木

月	火	水	木	金	土	日
				3 月 8 日	9 日	10 日
				9:00~17:00 IFBPW リーダーズサミット	9:00~17:00 IFBPW リーダーズサミット	10:00~12:00 NGO CSW NY 主催コンサルテーション・デー

				17:00~19:00 クレアファルチャーディナー		
11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日
10:00~13:00 CSW68 開会式	10:00~11:00 住友化学アメリカ訪問	18:30~19:30 政府代表団による NGO ブリーフィング	8:30~9:30 パラレルイベント開催 10:00~13:00 ユース代表のインタラクティブ・ダイアログ	8:00~9:30 日本政府・NGO共催サイドイベント	21:00~22:00 BPW東京クラブ、オーストラリア・ダーウィンクラブとのツイニング	
18日	19日	20日	21日	22日		
	14:00~15:00 川瀬氏・横井氏（国連開発計画 UNDP）を訪問	18:30~19:30 政府代表団による NGO ブリーフィング				

1-5. 各インターンが参加したイベント

＜宇佐　碧＞

日付	タイトル	主催者／会場
3/10（日）	Consultation Day 【訳】CSW のオープニングに開催される記念イベント	NGO CSW/ Online 【訳】NGO CSW（NGO CSW 主催者組織）／オンライン
3/11（月）	Opening of the session 【訳】開会式	UN Women/ The General Assembly Hall 【訳】UN Women／総会ホール
〃	Rebuilding the Social Organization of Care: A key to dismantling women's poverty 【訳】ケアの社会的組織の再構築：女性の貧困を解消する鍵	Oxfam/Tillman Chapel, 1st Floor, CCUN 【訳】オックスファム／CCUN ビル、1階ティルマン教会
3/13（水）	Ministerial Round Tables on the Priority Theme 【訳】優先テーマについての閣僚テーブル	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル 会議室4

〃	政府代表団による NGO ブリーフィング	国連日本政府代表部／国連日本政府代表部オフィス
〃	Oxfam Partner Mixer 【訳】Oxfam 関係者交流会	Oxfam/ -
3/14（木）	Economic challenges among single-parenting mothers and their children in Japan 【訳】日本のおける子づれシングルの経済的困難について	BPW Japan ／ Hybrid: Armenian Convention Centre, Y Room and online 【訳】BPW 日本／アルメニアン・コンベンション・センター Y ルーム
〃	Girls Education and Women Empowerment and Livelihoods – Zambia 【訳】女子教育と女性のエンパワーメント・生計向上ーザンビア	Zambia/ General Assembly Building, Conference Room 8 【訳】ザンビア／総会ビル、会議室 8
〃	Interactive dialogue with youth representatives on the priority theme 【訳】優先テーマに関するユース代表とのインタラクティブ・ダイアログ	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル会議室 4
3/15（金）	Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala 【訳】女性の多元的な貧困課題と草の根の対応　ー日本・スリランカ・グアテマラからの報告	Japan Women's Watch （ JAWW ）, International Women's Year Liaison Group, National Women's Comiitee of the UN NGOs, and Pemanent Mission of Japan to the United Nations／Online 【訳】JAWW（日本女性監視機構）、国連 NGO 国内女性委員会、国際婦人年連絡会、国連日本政府代表部／オンライン
〃	Financing Female-led Innovation and Entrepreneurship: Financing with a Gender Perspective to Achieve Gender Equality and Eradicate Poverty 【訳】女性主導のイノベーション・起業へのファイナンス： ジェンダー平等と貧困撲滅のためのジェンダー視点からのファイナンス	Justina Mutale Foundation/ 210E 43rd St. 【訳】ジャスティナ・ムテール基金／210 イースト、43 ストリート
〃	Youth Forum 【訳】ユース・フォーラム	UN Women/ Conference Room 3, Secretariat Building 【訳】UN Women／事務局ビル会議室 3
〃	BPW オーストラリア・ダーウィンとのツイニングイベント	BPW／オンライン

3/19（火）	Gender equality in climate action: the role of legal and policy frameworks in delivering a gender-responsive just transition 【訳】気候変動におけるジェンダー平等：法的および政策枠組みが持つ役割とジェンダーに対応した公正な移行に向けて	International Development Law Organization （IDLO）/ Hybrid (Online) 【訳】国際開発法機構／ハイブリッド（オンライン参加）
〃	政府代表団による NGO ブリーフィング	国連日本政府代表部／国連日本政府代表部オフィス
3/21（木）	Transforming access into action for women's financial and entrepreneurial advancement 【訳】女性の金銭的・ビジネス的の発展のための、アクセスから実行への変革	Fundación FLOR, W20, and Rede Mulher Empreendedora/ Church Center for the United Nations, 2nd Fl 【訳】FLOR 基金、W20, Rede Mulher Empreendedora／国連教会センター2階
3/22（金）	Digitally empowered and women-led development in Asia 【訳】デジタルによるエンパワーメントとアジアにおける女性主導の開発	Sasakawa Peace Foundation/ Salvation Army International Social Justice Commission, Auditorium 【訳】笹川平和財団／救世軍国際社会正義委員会 講堂
〃	Sierra Leone's Experience in Rolling Out Gender- Based Violence Information Management Systems 【訳】ジェンダーに基づく暴力情報管理システムの展開におけるシエラレオネの経験	Government of Siera Leone, Ministry of Gender and Children's Affairs/ Conference Room 6, General Assembly Building 【訳】シエラレオネ政府、ジェンダー・子ども省／総会ビル、会議室 6

＜鈴木　りゆか＞

日付	タイトル	主催者／会場
3/10（日）	Consultation Day 【訳】CSW のオープニングに開催される記念イベント	NGO CSW/NY/ Online 【訳】NGO CSW/NY（国連 CSW および UN Women の活動を支援するためのボランティア組織）／オンライン
3/11（月）	Opening of the session 【訳】開会式	UN Women/ The General Assembly Hall 【訳】UN Women／総会ホール

〃	Differential Impact on Women and Girls during the War in Gaza 【訳】ガザの戦時下における女性や少女への特異な影響	State of Palestine, ESCWA and UN Women/ Conference Room C, Conference Building 【訳】パレスチナ政府、西アジア経済社会委員会、UN Women／会議場ビル会議室C
3/12（火）	Ministerial round table on the priority theme 【訳】優先テーマに係る閣僚レベルのラウンドテーブル会合	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル 会議室4
〃	General Discussion 【訳】一般討論	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル 会議室4
3/13（水）	政府代表団によるNGOブリーフィング	国連日本政府代表部／国連日本政府代表部オフィス
3/14（木）	Economic challenges among single-parenting mothers and their children in Japan 【訳】日本のおける子づれシングルの経済的困難について	BPW Japan/ Hybrid: Armenian Convention Centre, Y Room and online 【訳】BPW 日本／アルメニアン・コンベンション・センター Yルーム
〃	Interactive dialogue with youth representatives on the priority theme 【訳】優先テーマに関するユース代表とのインタラクティブ・ダイアログ	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル 会議室4
3/15（金）	Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala 【訳】女性の多元的な貧困課題と草の根の対応　ー日本・スリランカ・グアテマラからの報告	Japan Women's Watch （JAWW）, International Women's Year Liaison Group, National Women's Committee of the UN NGOs, and Permanent Mission of Japan to the United Nations/ Online 【訳】JAWW（日本女性監視機構）、国連NGO国内女性委員会、国際婦人年連絡会、国連日本政府代表部／オンライン
〃	Youth Forum 【訳】ユース・フォーラム	UN Women/ Conference Room 3, Secretariat Building 【訳】UN Women／事務局ビル 会議室3
〃	BPW オーストラリア・ダーウィンクラブとのツイニングイベント	BPW／オンライン

3/18（月）	”Making taxes work for women: challenges and opportunities in reforming national and global tax system”: voices from developing countries in general, LDCS, SIDS, and LLDCS in particular 【訳】「女性に役立つ税制の実現：国家および国際税制の改革における課題と機会」：開発途上国、後発開発途上国（LDC）、小島嶼開発途上国（SIDS）、内陸開発途上国（LLDCS）の声	Nepal- LDC Chair, Botswana- LLDC Chair, SIDS Chair, LDC Watch, Asia Pacific Movement on Debt and Development-APMDD, UNOHRLLS/ Conference Room D, Conference Building 【訳】ネパール-LDC 議長、ボツワナ-LLDC 議長、SIDS 議長、LDC ウォッチ、債務と開発に関するアジアの民衆運動（APMDD）、国連後発開発途上国・内陸開発途上国・小島嶼開発途上国担当上級代表事務所（UNOHRLLS）／会議場ビル 会議室 D
〃	Women's political participation and empowerment in post-coup Myanmar 【訳】クーデター後のミャンマーにおける女性の政治参加とエンパワーメント	International IDEA, Myanmar Women Parliamentarians Network, Permanent Mission of Luxembourg to the UN/ Conference Room 12, General Assembly Building 【訳】民主主義・選挙支援国際研究所（International IDEA）、ミャンマー女性議員ネットワーク、ルクセンブルク常駐代表部／会議場ビル 会議室 12
〃	Women and LGBT+-led organizations on the frontline of humanitarian action: promoting accountability and justice for gender-based violence in the context of war, recovery, and reconstruction 【訳】人道支援の最前線に立つ女性および LGBT+主導の組織：戦争、復興、再建の文脈における説明責任の正義の推進	Canada, Germany, Malta, Ukraine, Hebrew Immigrant Aid Society（HIAS）, Women's Refugee Commission/ Permanent Mission of Germany to the United Nations 【訳】カナダ、ドイツ、マルタ共和国、ウクライナ、ヘブライ移民援助協会（HIAS）、女性難民委員会／国連ドイツ政府代表部オフィス
3/19（火）	Gender equality in climate action: the role of legal and policy frameworks in delivering a gender-responsive just transition 【訳】気候変動におけるジェンダー平等：法的および政策枠組みが持つ役割とジェンダーに対応した公正な移行に向けて	International Development Law Organization（IDLO）/ Conference Room 6, General Assembly Building 【訳】国際開発法機構／会議場ビル会議室 6

〃	Shaping inclusive futures: gender and AI at work 【訳】包括的な未来を形作る：仕事におけるジェンダーと人工知能	International Telecommunication Union/ Conference Room C, Conference Building 【訳】国際電気通信連合／会議場ビル会議室 C
〃	Menstrual Justice 【訳】月経に関する正義	Costa Rica/ Conference Room 8, General Assembly Building 【訳】コスタ リカ／会議場ビル 会議室 8
〃	政府代表団による NGO ブリーフィング	国連日本政府代表部／国連日本政府代表部オフィス
3/20（水）	Care economy in the multilateral system: uniting stakeholders for global impact 【訳】多国間制度におけるケアエコノミー：世界的な影響のためにステークホルダーを結集する	Canada, UNRISD, IDRC, GAC, Southern Voice, CIPPEC, United Nations Foundation/ Conference Room 12, General Assembly Building 【訳】カナダ、国連社会開発研究所（UNRISD）、国際紛争解決センター（IDRC）、カナダ国際関係省（GAC）、Southern Voice、国連財団／会議場ビル 会議室 12
〃	Multistakeholder partnerships and practices to push forward for gender equality, human rights and democracy 【訳】ジェンダー平等、人権、民主主義の推進のためのマルチステークホルダー・パートナーシップと実践	UN Women, in partnership with UNDP, UNFPA, OHCHR/ Conference Room 4, General Assembly Building 【訳】UN Women、国連開発計画、国連人口基金、国連人権高等弁務官／会議場ビル 会議室 4
3/21（木）	Civil society briefing: summit of the future & CSW revitalization 【訳】市民社会ブリーフィング：未来のサミットと CSW の活性化	NGO Committee on the Status of Women（NGO CSW/NY）/ Conference Room 4, General Assembly Building 【訳】NGO CSW/NY／会議場ビル 会議室 4
〃	Investing in women’s leadership: women’s participation in recovery and reconstruction efforts 【訳】女性のリーダーシップへの投資：復興と再建の取り組みにおける女性の参加	The Permanent Missions of Austria, Sierra Leone and South Korea to the UN, Global Network of Women Peacebuilders（GNWP）, Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict（GPPAC）, UN Department of Political and Peacebuilding Affairs（DPPA）and UN Women/ Conference Room 6,

		General Assembly Building 【訳】国連オーストリア政府代表部、シエラ　レオネ政府代表部、韓国政府代表部、平和構築に関する女性ネットワーク（GNWP）、武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ（GPPAC）、国連政治・平和構築局（DPPA）、UN Women／会議場ビル　会議室６
〃	Bridging gaps, building futures: exploring the intersection of care work, poverty elimination, social protection, and gender equality 【訳】ギャップを埋め、未来を築く：ケア労働、貧困撲滅、社会的保護、ジェンダー平等を模索する	Spain/ Conference Room 6, General Assembly Building 【訳】スペイン、会議場ビル 会議室６
3/22（金）	Digitally empowered and women-led development in Asia 【訳】デジタルによるエンパワーメントとアジアにおける女性主導の開発	Sasakawa Peace Foundation/ Salvation Army International Social Justice Commission, Auditorium 【訳】笹川平和財団／救世軍国際社会正義委員会 講堂

＜丸井　萌＞

日付	タイトル	主催者／会場
3/10（日）	Consultation Day 【訳】CSW のオープニングに開催される記念イベント	NGO CSW/NY/ Online 【訳】NGO CSW/NY（国連 CSW および UN Women の活動を支援するためのボランティア組織）／オンライン
3/12（火）	Opening of the session 【訳】開会式	NGO CSW/NY/ Online 【訳】NGO CSW/NY（国連 CSW および UN Women の活動を支援するためのボランティア組織）／オンライン
〃	Women physicians working to prioritize gender equality in promoting SDGs 【訳】SDGs の促進にあたりジェンダー平等を推進する女性内科医たち	American Medical Women's Association, Church center for the United Nations 【訳】米国女性医療従事者協会／国連教会センター8 階

〃	SRHR in public services: Pathway to gender equality 【訳】性と生殖に関する健康と権利	Planned parenthood Global Church center for the United Nations 2nd floor 【訳】国連教会センター2階
〃	General Discussion 【訳】一般討論	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル 会議室4
3/13（水）	政府代表団によるNGOブリーフィング	国連日本政府代表部／国連日本政府代表部オフィス
〃	General Discussion 【訳】一般討論	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル会議室4
3/14（木）	Economic challenges among single-parenting mothers and their children in Japan 【訳】日本における子づれシングルの経済的困難について	BPW Japan/ Hybrid: Armenian Convention Centre, Y Room and BPW 【訳】日本／アルメニアン・コンベンション・センター Yルーム
〃	Interactive dialogue with youth representatives on the priority theme 【訳】優先テーマに関するユース代表とのインタラクティブ・ダイアログ	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル会議室4
3/15（金）	Women's Multidimensional Poverty Challenges and Grassroots Responses: Insights from Japan, Sri Lanka, and Guatemala 【訳】女性の多元的な貧困課題と草の根の対応　ー日本・スリランカ・グアテマラからの報告	Japan Women's Watch （JAWW）, International Women's Year Liaison Group, National Women's Committee of the UN NGOs, and Permanent Mission of Japan to the United Nations/ Online 【訳】JAWW（日本女性監視機構）、国連NGO国内女性委員会、国際婦人年連絡会、国連日本政府代表部／オンライン
〃	Youth Forum 【訳】ユース・フォーラム	UN Women/ Conference Room 3, Secretariat Building 【訳】UN Women／事務局ビル会議室3
〃	BPWオーストラリア・ダーウィンクラブとのツイニングイベント	オンライン
3/18(月)	Asylum-Seekers and Migrant Women at the Mexico/US Border 【訳】メキシコ/アメリカ国境に滞在し難民申請者と移民女性たちについて	Latin American/Caribbean Committee of Roretto Community 【訳】ラテンアメリカ・カリビアン協会

3/19（火）	Women and LGBTQ+ led organizations on the frontlines of humanitarian action: Promoting accountability and Justice for gender-based violence in the context of war, recovery , and reconstruction 【訳】人道的支援の最先端にいる女性と LGBTQ による支援機構：戦争、復興と再建の文脈における性暴力での説明責任と正義	UN Women/ Conference Room 4, Conference Building 【訳】UN Women／会議場ビル会議室 4
3/20（水）	政府代表団による NGO ブリーフィング	国連日本政府代表部／国連日本政府代表部オフィス
3/21（木）	Investing in women’ s leadership: women’ s participation in recovery and reconstruction efforts 【訳】女性のリーダーシップへの投資：復興と再建の取り組みにおける女性の参加	The Permanent Missions of Austria, Sierra Leone and South Korea to the UN, Global Network of Women Peacebuilders （ GNWP ） , Global Partnership for the Prevention of Armed Conflict （ GPPAC ） , UN Department of Political and Peacebuilding Affairs （DPPA） and UN Women/ Conference Room 6, General Assembly Building 【訳】国連オーストリア政府代表部、シエラ レオネ政府代表部、韓国政府代表部、平和構築に関する女性ネットワーク（GNWP）、武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ（GPPAC）、国連政治・平和構築局（DPPA）、UN Women／会議場ビル 会議室 6
3/22(金)	United Nations drug free world conference sustainable solutions per the ungass 2016 consensus, education, equality and justice for women; conscience to empower women and create drug free communities 【訳】国連薬物フリーのための世界会議 UNGASS2016 合意のための持続的な解決策　女性のための平等と正義	Turkiye, Foundation for a Drug Free World/COJEP Women/ Conference Room 6, General Assembly Building 【訳】ドラッグフリーワールド財団 UN Women/会議場ビル 会議室 6

2. 主催したパラレルイベントについて

2-1. パラレルイベントの概要

報告：丸井

NGO によるパラレルイベントは CSW 会期中、多数が周辺施設で行われていた。日本 BPW 連合会として、今回は対面および Zoom での中継を同時に行う、ハイブリッド形式で開催した。

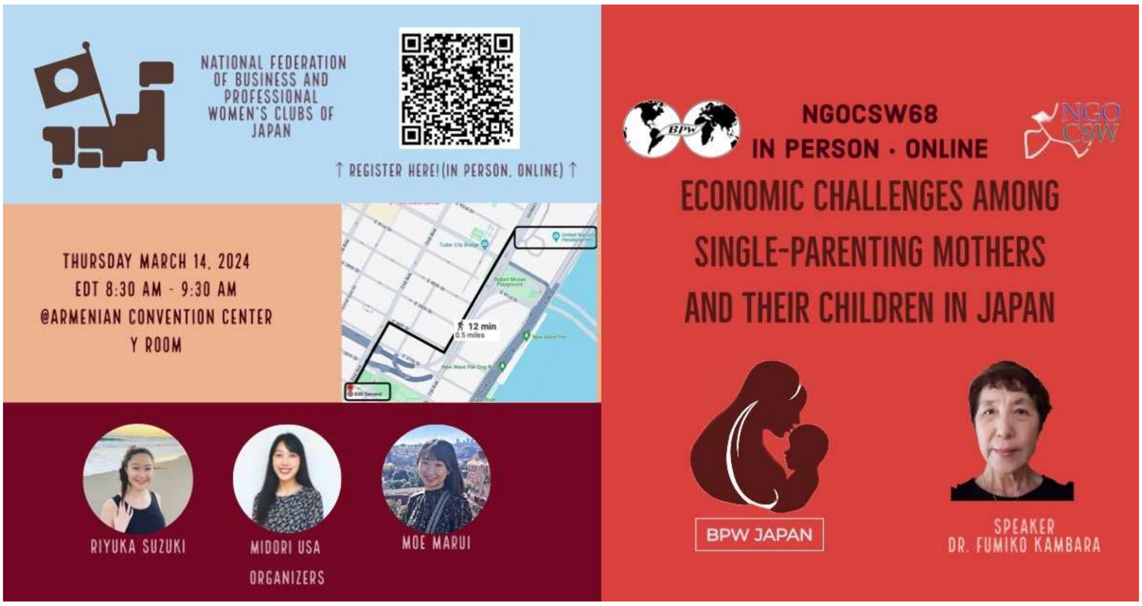
- タイトル
  Economic challenges among single-parenting mothers and their children in Japan
  日本社会における子づれシングルの経済的困難について
- 開催方法　対面＋ZOOM（現地の中継およびブレイクアウトルームセッションを実施）
- 開催場所　Armenian Convention Center Room Y（630st, 2nd Avenue）
- 開催日時　2024 年 3 月 14 日（木）8:30～9:30
- 登壇者　神原　文子さん（社会学者）
  司会　丸井　萌　（CSW68 インターン）
  運営　宇佐　碧、鈴木　りゆか　（CSW68 インターン）
- 進行、運営の役割分担およびプログラムは以下の表の通り

CSW68 パラレルイベント進行表						
時間 (EST/日本時間)	流れ	会場	オンライン	丸井	宇佐	鈴木
8:15~8:30 (21:15~21:30)	開始前（入場開始）	参加者の誘導＋開始前案内 8:27 頃	入室許可（8:25）	開始前案内	会場誘導	共同ホスト ZOOM 参加者入室許可
8:30~8:35 (21:30~21:35)	開会	開会の挨拶、概要の説明、神原さん（以下講師）紹介	〃	司会		
8:35~8:55 (21:35~21:55)	ご講演	講師ご講演	〃	聞く	聞く	聞く
8:55~9:05 (21:55~22:05) *最終でも 9:15 まで	ディスカッション	ディスカッション説明		説明		ブレイクアウトルーム作成
		ディスカッション	ブレイクアウト		ディスカッション見回り	
9:05~9:10 (22:05~22:10)	全体シェア	会場のみ *ディスカッションの内容のみ共有	（オンラインは時間が余れば質疑応答に）			

9:10~9:25 (22:10~22:25)	質疑応答	会場から質問ピックアップ→講師ご回答		会場質問者へマイクお渡し	質問聞き中：メモ	先生のご回答フォロー
9:25~9:30 (22:25~22:30)	総括	司会＋講師総括。終わったら退室してもらうよう促す。アンケート回答のお願いをする				神原先生のスライドの PDF を Zoom のチャットに流す
9:30~9:40 (22:30~22:40)	終了・撤退	終了・撤退				

●宣伝方法　下のようなフライヤーを作成し BPW 関係者、また JAWW 主催の CSW68 前にオンラインにて行われる勉強会、NGO CSW68 の vfair 専用サイトに掲示を行った。

日本時間での参加がしやすい時間帯であったため、日本からの参加者も多くいらっしゃった。



2-2. パラレルイベントの舞台裏—企画のプロセス

報告：鈴木

以下では、パラレルイベント開催に向けた準備の内容とプロセスを細分化して説明する。構成は、以下の通りである。まず、パラレルイベントのテーマ決定までの議論の内容とそれに基づく講師の決定や連絡方法について記す。加えて、イベント開催に向けた役割分担、開催方法の決定について報告する。企画のプロセスに関する下記の内容を以下のスケジュール表（2023 年 10 月～2024 年 3 月）と併せて、来年度以降のパラレルイベントの準備の際に参考にしていただければ幸いである。

日付	トピック	議題
2023 年 10 月	全体ミーティング（BPW 事務局、インターン）	・顔合わせ
2023 年 11 月	インターンミーティング	・テーマの候補について
	全体ミーティング	・候補テーマに関する調査報告 ・候補テーマに関して、BPW 事務局よりフィードバックをいただく ・実施形態（対面／オンライン）についての検討 ・イベントの宣伝方法の検討
	インターンミーティング	・テーマの確定 ・講師の候補に関する調査報告
	全体ミーティング	・確定したテーマの紹介 ・講師の候補に関して、BPW 事務局よりフィードバックをいただく ・実施形態の希望を確定 ・今後の流れの確認 ・イベントタイトルの検討
	インターンミーティング	・テーマに関する議論 ・講師の候補について ・イベントタイトル案、概要の検討 ・開催規模（参加者の推定人数）の検討 ・イベント当日の役割について ・イベント当日の流れについて
	インターンミーティング	・イベントタイトル案、概要文の完成
2023 年 12 月	全体ミーティング	・パラレルイベントの申請
	神原文子さん（講師）との打ち合わせ	・顔合わせ ・企画内容の説明 ・神原さんよりフィードバックをいただく
2024 年 1 月	全体ミーティング	・パラレルイベント申請結果を受けて今後のタスクを確認
	インターンミーティング	・神原さんとの打ち合わせに向けた事前ミーティング
	神原文子さんとの打ち合わせ	・CSW68 チーム顔合わせ（BPW 連合会インターン派遣事業プロジェクトチーム、神原さん） ・インターンより神原さんに企画書の内容の共有 ・企画案の擦り合わせ
	インターンミーティング	・フライヤーの内容の確認
2024 年 2 月	インターンミーティング	・同上
	神原文子さんとの打ち合わせ	・神原さんによるプレゼンテーション ・プレゼンテーションへのフィードバック ・その他
	インターンミーティング	・当日の流れ、役割、タスクの確認

2024年3月	藤田典子さん（当会専務理事）と打ち合わせ	・当日の流れの確認
	神原文子さん、中山由美子さん（当会監事）、藤田典子さんと最終打ち合わせ	・当日に向けたリハーサル

※ NGO CSW/ NY が YouTube にて実施した「NGO CSW68 Forum」は、パラレルイベント企画時において大変参考になった。

パラレルイベントのテーマの決定

　CSW68 の優先テーマ「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速（日本政府訳）」に基づき、絶対的貧困あるいは相対的貧困のどちらに焦点を当てるかについて議論を重ねた。決定を下すために、途上国の絶対的貧困と日本の女性の相対的貧困に関するリサーチを行い、その調査報告をインターン内かつ全体ミーティングにて実施した。結果として、日本特有のジェンダー課題について他国の政策立案者やアクティビスト等に共有する絶好の機会であるとして、日本における女性の貧困課題に関する発表をすることに決まった。

　具体的なイベントタイトルは、後述する講師の方が確定したのちに決められた。主催者の NGO CSW/NY に提出するタイトルは 10 ワード以内に収める必要があったため、鍵となるメッセージが満遍なく包括されるような言語表現となるように意識した。

講師の方の決定・連絡

　テーマ確定後、パラレルイベントに現場で活動する人の声や、日本の女性の貧困課題についての研究者の声を反映したいというインターンの強い想いより、認定 NPO 法人で活動されている方やアカデミアにて当該テーマを研究されている方に関する調査を実施した。ご依頼へのご返答をいただけない場合を想定し、複数の候補者を選定し、順に依頼メールをお送りした。その中で、最も早くかつ前向きなご返答をくださったのが、「子づれシングル」研究の第一人者で社会学者の神原文子さんであった。神原さんは、旅費や滞在費を含めて全ての経費をご自身でご負担いただく必要があるのにもかかわらず、パラレルイベントのためにニューヨークまでお越しいただけるとのことであった。ご返信をいただくやいなや神原さんに講師をお願いすることがすぐに決まり、それから当日まで顔合わせの打ち合わせを含めて、神原さんとは 4 回にわたるミーティングを実施した。その間、神原さんが作成くださったプレゼンテーションの資料を BPW 連合会事務局の皆様とともに拝見し、言語表現や内容についてフィードバックを共有させていただくためにメールのやり取りを繰り返した。加えて、アメリカの入国ビザ（ESTA）の取得方法や国連本部入館証の申請方法などの事務的な情報提供に関しては、BPW 連合会事務局の皆様が担当してくださった。

イベントの開催方法

　主催者の NGO CSW/NY は、基本的にハイブリッド開催は推奨しておらず、対面開催あるいはオンライン開催のどちらかを選択することが勧められている。しかしながら、イベント

の内容を国内外の方々に届けたいという思いから、対面とオンラインのハイブリット開催を選択した。手持ちWifiやPC、スピーカーなどのハード面は、BPW連合会事務局の皆様にお力添えいただいた。対面で実施することにより、参加者との密な交流を図ることが可能となり、オンラインで実施することにより参加者の数を確保することが可能となった。

役割分担

準備段階における主な役割としては、以下の通りである。

役割	メモ
議事録	Google Driveで管理
日程調整	「伝助」を利用
企画書作成	記載事項：団体名、担当者（インターン）、概要（パラレルイベント、BPW）、日時、会場、参加者、目的と趣旨、ご講演依頼内容、当日の流れ
渉外（講師やBPW連合会事務局とのコミュニケーション）	主にメール、LINEを利用
フライヤー作成	Adobe Photoshopの利用

以上、全体のスケジュール、テーマ決定までの議論事項とそれに基づく講師の決定や連絡方法、さらには、イベント開催に向けた役割分担、開催方法の決定について記載した。パラレルイベント開催に向けた準備段階にて、藤田典子専務理事をはじめとし、BPW 連合会事務局の皆様より大変心強いサポートをいただいた。この場をお借りして、イベント開催の準備に関わってくださった関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

2-3. 当日の様子

報告：宇佐

開始前

会場のArmenian Convention Centerには、下見の際にスタッフから情報提供のあった開場時間（イベント開始30分前）の少し前に集合し、開場を待った。開場してからは、パソコンのセットアップ、会場誘導に分かれて開始前準備を行う予定であったが、「パソコンの画面がスクリーンに映らない」などのトラブルもあり、バタバタとした開始前であった。また事前下見の際に判明した「共有Wifiが使えない」という問題に対しては、各自ポケットWifiやテザリング機能を使うなどして対応した。

イベント

朝のとても早い時間かつ国連本部からも距離が徒歩10分程と距離があるにも関わらず、会場には14名の参加者が足を運び参加し、オンラインでも多くの参加者が参加した。

前述の機材トラブルに加え、講演中はマイクに雑音が入るというトラブルもあったもの

の、マイクに対してはインターンが持つことで雑音を防ぐ、という方法で対処した。前述の機材トラブルもあり数分遅れで開始したものの、ディスカッションの時間も10分以上取ることができ、予定していたプログラムをほぼ時間通りに終えることができた。

ディスカッションのパートでは、「シングルマザーに必要なサポート」というテーマで、様々な視点から、各国の事例も共有をしながら議論が行われていた。

パラレルイベント対面参加者との記念写真

イベント終了後

イベント終了後には、事前に印刷したアンケート用のQRコードを案内しながらアンケート回答を促した。回答としては、ポジティブな回答がほとんどで、特にご講演内容やディスカッションのパートに対して満足する声が目立った。その一方で「ディスカッション時間がより欲しかった」という声や「ブレイクアウトの運営で手間取ってしまった」という声も見受けられた。イベント終了後にも参加者同士で意見交換や交流が行われており、オンラインに加えて対面でもイベントを開催した意義が感じられた瞬間であった。

3. インターン個人報告

3-1. 宇佐　碧

中央大学総合政策学部４年

はじめに

この度は、CSW68 への派遣の機会をいただきましたことに、心よりの感謝を申し上げます。新興国をメインにジェンダー関連の学び・活動をしながらも、ジェンダー格差・問題について日本で語ることに一種の「怖さ」「ためらい」を感じていた自分にとって、CSW という、ジェンダーに関する問題が市民によって前向きに議論され互いにエンパワーされる他に類を見ない空間に身を置けた 2 週間は、前述の感情を取り除き、ジェンダー格差の問題に先陣を切って取り組まれてきた先輩方の様に「声をあげる」勇気を蓄えられた、大変貴重な経験となりました。本パートでは、大きく、（1）インターン参加の背景、（2）現地での動き・学び、について記すことで、報告とさせていただきます。

（1）インターン参加の背景

前年・前々年度インターンの奥山千波さんのお話をきっかけに本インターン派遣事業について知り、スケジュールがようやく合った今年度、「学生生活最後の活動として参加したい」と応募しました。また今回の CSW 参加は 2023 年 9 月からの留学期間の一部でもあり、イギリスにて学んだ座学や英語能力、アフリカのガーナにて触れた気候変動の現状・先進国とは比べ物にならない女性の貧困の問題についての考えを、最後に CSW にてインプット・発信するという位置づけでした。

そのうえで、CSW 参加の際には「日本におけるジェンダー平等に向けた現状・議論を学び発信すること」「自身の専門である新興国を対象に、ジェンダー平等に貢献する足掛かりを作る・重要性を叫ぶ」の 2 点を目的として、事前準備から会期中の 2 週間までを過ごしました。

（2）現地での動き・学び

CSW 会期中は、前述の 2 つの大きな目的のもと、特に「繋がり」を重要にしながら過ごした 2 週間でした。アメリカにて教鞭をとるジェンダー研究者の方と同じイベントに参加したことから会話が始まり、ご自身の主催するサイドイベントのご紹介・登壇者の方々へのお繋ぎ、その登壇者の方々から広げていただいた女性活動家との繋がり、参加したイベントをきっかけに招待していただいた非公開の関係者イベント、その際に出会ったアフリカ各国の官僚とのネットワーク等々、積極的にコミュニケーションをとったことで、自身の専門とする分野や関心のある分野の方々にお話を伺えるご縁を多くいただき、彼ら彼女らの勧めでイベントに参加することで、より知識・ネットワーク共に深めるという、人との「繋がり」でできたスケジュールを過ごしました。以下では、そのようなご縁から生ま

れた機会や彼ら彼女らからの情報提供も含め、会期中に学んだこと・感じた内容を共有させていただきます。

「女性×ファイナンス」の制度的課題

今回の CSW68 優先テーマは「ジェンダーの視点からの貧困撲滅、機構強化、資金動員によるジェンダー平等達成と女性・女児のエンパワーメントの加速」であった。事実、新興国・途上国では銀行口座すら持つことのできない家計も多く、ファイナンスへのアクセスは男女関わらず喫緊の課題である。特に女性の場合は、家計をも主体的に管理することが難しい（夫が主導権を持っている）ことが多く、女性の貧困を大きくする要因となっている。一方の先進国についても、「融資が受けづらい」など女性としてビジネスを行う難しさに言及しているイベントが目立っていた。このようにさらなる包摂や発展が求められる「女性×ファイナンス」が優先テーマであるだけに、より実行力のある枠組みや取り組みが今回の CSW にて前述の優先テーマのもと合意・採択されることを期待していた。しかしながら、合意結論では、あらためて重要度の高い問題の再認識やそれらに係る数値目標等が確認されたものの、例えば気候変動分野におけるパリ条約のような実行力のある結論には至らなかった。

「女性×ファイナンス」の分野における専門家が少ないという声を会期中に耳にした。今回の結論との因果関係、どれだけの「女性×ファイナンス」の専門家が会合に出席していたのか等不明な点も多いため断定はできないものの、やはり具体的に実行力のある枠組みを採択するだけの専門家が少ないことは事実である。上記の新興国・先進国が直面する課題に対処していくことと同時に、「女性×ファイナンス」の分野における専門家育成が必要である。

その他、目立った議題（気候変動・無償ケア労働）

まず、気候変動は参加したどのイベントにおいてもほとんど口にされていた印象をうけた。「女性の貧困」が叫ばれる国では特に、気候変動の影響を受ける地域の女性たちが困難に直面している、と多くのイベントで訴えられており、気候変動とジェンダー格差の関わりを意識する必要性を実感した。

また「無償ケア労働」についても多く議論されており、日本でも「家事負担」など近年話題にあがることはあれど、さらにホットトピックとして扱われていることが印象的だった。「『無償ケア』が無くならない限りは、女性は経済的弱者の立場から抜け出せない」と明確に訴える活動家も多く、家事労働や介護など「女性がするもの」という感覚が他国と比べて特に大きい日本でこそ活発に議論が交わされるべきと感じた。

おわりに

上記のような学び・気付きを得ることができた 2 週間は、私にとってかけがえのない経験となりました。特に前述の「『女性×ファイナンス』人材の不足」については、帰国後 1 週間後に新卒として民間銀行に入行し金融界でのキャリアをスタートした自分にとっては、当事者としての意識を持たずにはいられない問題です。「自身の専門性である金融の

重要性を再認識し、金融を用いてジェンダー格差を始めとした社会課題解決に貢献するキャリアへの想いを改めて強める契機」となったことは、大変大きな実りでした。

パラレルイベント開催や IFBPW イベント参加を含めた CSW68 への派遣の機会をいただき、渡航前から滞在中、帰国後まで多大なサポートをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。今回経済面で多大なご支援を賜りました、フィッシュファミリー財団による平松昌子メモリアル基金、そして BPW International にはひと際の感謝を申し上げます。政府からの援助等もないなかで、ユースとして NY の CSW に行くことは難しくも、参加できた際には大きな変化・学び・実りの得られる機会であると確信しております。今後も当インターン事業を始めとして、日本からの意欲的なユースが CSW を経験し各コミュニティに帰って学びを活用すること、CSW にてエンパワーされ、より活動がしやすくなること、ユース起点でも CSW の認知度、ひいてはジェンダー格差への関心が高まることを願っております。今回得られた多くの学び、意志、ネットワークを私も最大限活用し、今後とも活動して参ります。

3-2. 鈴木　りゆか

国際基督教大学教養学部アーツ・サイエンス学科４年

はじめに

この度は第 68 回国連女性の地位委員会（CSW68）に日本 BPW 連合会のインターンとして派遣していただきましたこと、心より御礼申し上げます。大学時代に精を出してきたジェンダー研究と政治学に関する学びや実践を改めて振り返り、自らの次の挑戦について思考を巡らす場として実に相応しい CSW に参加できたことは、大学時代の集大成と言っても過言ではありません。BPW 連合会のみなさまをはじめとし、今回のニューヨーク渡航に向けて、お力添えいただいた関係者のみなさまお一人おひとりに重ねて心より感謝申し上げます。

私の報告パートでは、（1）インターン応募の動機、（2）CSW68 での発見・学びの 2 つに分け、CSW68 に関する自身の経験を記します。（2）に関しては、「a. 国連組織が直面するトランスナショナルな課題」と「b. ジェンダー問題や若者の政治参画に対する日本政府の関心度／優先度の低さ」の 2 パートに分けて、CSW68 での経験を経て会得した考えを記します。自らの経験が単なる個人の経験にとどまることがなく、ある種の社会の“共有物”としてシェアされることを願っております。また、勉強不足により至らない点もあるかと存じます。お読みいただいている際にお気づきの点がございましたら、ご指摘いただけますと幸いです。

（1）インターン応募の動機

BPW 連合会が CSW へのインターン事業を行っていることを知ったきっかけは、政治分野におけるジェンダー・クオータ制導入に関するアドボカシー運動をする中で出逢った BPW

の佐藤道子理事からのご紹介であった。今年の CSW の優先テーマに強い学術的関心があることに加えて、ジェンダー問題に関する論文作成などのための最前線の資料が入手可能であることや、世界各国の女性団体の参加者との交流ができることなどの恩典に惹かれて、インターン応募を決意した。

CSW68 に参加した結果、サイドイベントやパラレルイベントを通して、異なる国や地域にて粘り強く活動を展開する同士との邂逅に加えて、ジェンダーに関する問題や取組みなど最先端の情報にアクセスすることができ、当初のインターン応募の目的は果たされた。また、国連職員の方々との対話などを通して、国連組織が直面するトランスナショナルな課題などについても知見を広げ深めることができた。さらには、他の加盟国から派遣されていたユースと交流を深めるなかで各国におけるユースへの支援体制の違いを知り、日本政府のジェンダー問題や若者の政治参画に対する関心度・優先度の低さを身を以て実感した。

（2）CSW68 での発見・学び

a）国連組織が直面するトランスナショナルな課題

ニューヨーク滞在中に国連職員の方々と交流し対話を重ねる機会が多々あったが、伺ったお話の中で最も印象的であったことは、国連の資金不足に関するものである。昨今の世界情勢や内政、そして世界のあらゆるところで見られるジェンダー平等政策や民主主義へのバックラッシュなどによって、国連組織が経済的脆弱性に直面しているという。その影響により、加盟国からの国連組織への出資金の減額、或いは資金使途の厳格な指定など、以前と比較して、国連組織内で自由に活用できる資金が減少している。その資金不足の影響が CSW における会議の開催時間の縮小や、国連組織内における労働者の契約形態の変化に見られるようになった。具体的に、前者に関しては、昨年まで CSW の会期中に朝方まで行われていた会議は、当日の夕方の早い段階で終了するなどの変化があった。後者に関しては、国連組織内において、正規雇用の職員の数が減らされ、非正規職員（コンサルタント、インターンなど）の数を増やすなどの変化が見られる。国連組織の資金不足が深刻化し、その不足の穴埋めを担うのが“安価”な労働者である非正規職員となる。国連組織内のヒエラルキー（階層）を背景とした労働と待遇の不均衡が見られるため、同一価値労働同一賃金を訴えていく必要があると考える。また、学生時代に国連機関にてインターンなどの経験を積むことができる学生の多くは、親などから経済的支援を受けることができる環境に在る場合が多い。そのため、「経験」と引き換えに、低賃金のなかで国連組織にて実績を積むことを選択「できる」学生と「できない」学生とが存在するのではないかと推測する。労働の対価として正当な賃金を支払うシステムが整備されれば、自らの力で変えることができない個人の属性の上に成り立つ「メリトクラシー（能力主義）」による結果ないし機会の不平等の是正につながる可能性もあるのではないだろうか。世界中の多くの人びとに影響を与える国連組織の経済的脆弱性に関する課題が露呈する中、民主主義と資本主義、労働者の人権の緊張関係について再考する必要性に迫られている。加えて、世界的に見られる、民主主義やジェンダー平等政策に対するバックラッシュとどのように対峙

していくべきかについても検討の余地がある。

b）ジェンダー問題や若者の政治参画に対する日本政府の関心度／優先度の低さ

本パートでは、他の加盟国のユースへのインタビュー調査（2024 年 5 月時点）をもとに、CSW のユース参加者への経済的支援という観点より、日本政府のジェンダー問題や若者の政治参画への関心度と優先度の低さについて指摘する。現状、日本においては、インターンの派遣事業を実施する各団体によって、一定の支援金が給付される場合があるが、それらは飽くまでも政府の出資ではないことを明記したい。私は、今年の CSW にて日本政府代表団のユース代表を拝命したことにより、他の加盟国のユースと交流を図る機会をいただいた。その際に彼女ら彼らと連絡先を交換したため、その連絡先を活用し、他の加盟国における CSW のユース参加者に対する経済的支援について尋ねた。以下では、質問に対して丁寧な返答をしてくれたアイスランド、イタリア、マルタ共和国から派遣された 3 名の経験をベースに具体的な事例を提示する。

前提として、以下の 3 カ国は、「UN Youth Delegate Programme（以下、UNYDP）（筆者訳：国連のユース代表プログラム）」[1]を導入している加盟国であるという点で共通している。国連におけるユースの参加形態のひとつに、国連総会や経済社会理事会の各種機能委員会の公式代表団に若者の代表を加えることがある。国レベルでユース代表プログラムを確立し、国連で自国のユースを代表する者を決定することは、加盟国の責任であるとされている。以下の 3 加盟国においては、同プログラムを既に導入している上に、政府によるユース代表への経済的支援が確立されている。彼女らの経験を他国のグッド・プラクティスとして紹介し、日本にてアドボカシーを展開する際に役立つ情報となることを願う。

● アイスランドの場合

アイスランドにおける UNYDP は、「National Youth Council（以下、NYC）（筆者訳：国立ユース評議会）」[2]によって運営されており、国連の会議に若者を派遣するために、毎年政府から 22,500 USD（約 350 万円）が支給される。現在は、6 名のユース代表が選出されており、6 名分の旅費が同資金で賄われる仕組みとなっている。つまり、1 人につき約 3,750 USD（約 59 万円）が支給される。しかしながら、人によっては現状の資金のみでは不十分である場合もあるため、現在は、NYC がより手厚い経済的支援を求めて政府に交渉しているそう。さらには、NYC を仲介とした政府による経済的支援に加えて、首相官邸から CSW への参加を望む複数の市民団体向けに資金が提供されるという。これにより、ユースは上述の金額に加えて、1,700 USD（約 26 万円）の金額が給付される。つまり、NYC と首相官邸の双方から資金を得ることができれば、約 5,450 USD（約 85 万円）の資金援助を獲得することができるため、（滞在期間にもよるが）物価高にも対応可能となる。

[1] Department of Economic and Social Affairs. (2024). UN Youth Delegate Programme. United Nations. https://social.desa.un.org/issues/youth/un-youth-delegate-programme (Last accessed: 29 May, 2024).

[2] アイスランド国内において、41 の子供や若者に関する NGO 団体を統括している団体

● イタリアの場合

イタリアにおけるUNYDPは、「The Italian Society for International Organization（以下、SIOI）（筆者訳：イタリア国際機関協会）」によって運営されており、その団体より直接にユース代表の銀行口座に資金が振り込まれる仕組みとなっている。SIOI は、イタリアの国連協会および国際連合協会世界連盟（WFUNA）の創設メンバーとして、UNYDP を2017 年に初めてイタリアにて開始して以来、外務省と国際協力省と協働で同プログラムの展開・実施に従事してきた組織である。SIOI は、ユース代表の選出を行うだけでなく、選出された若者が自らの任務を最大限に果たすことができるように、カスタマイズされたトレーニングを実施している[3]。このように、インタビュー対象者の回答をもとに更なる調査を行ったところ、イタリアにおいては、経済的支援のみならず、選出されたユース代表向けのトレーニング等も実施されており、若者のための手厚い支援が保障されていることが明らかとなった。

● マルタ共和国の場合

マルタ共和国においては、外交政策の策定と実施を管轄し、政府全体の一貫性を確保する役割を担うMinistry for Foreign and European Affairs and Trade（筆者訳：欧州外務貿易省）より、飛行機代が全額支払われ、宿泊代と食費が日当で支給されるという。

以上、CSW68 のユース代表のインタラクティブ・ダイアログにて出会った 3 加盟国（アイスランド、イタリア、マルタ共和国）のユース代表の経験をベースとして、他国のユースへの経済的支援制度を紹介した。情報提供に快くご協力くださった 3 加盟国のユースには、この場をお借りして御礼を申し上げたい。

先述のとおり、2024 年 5 月時点において、日本では国連の公式会議に参加するユース代表に対する、政府による資金提供は一切存在しない。ニューヨーク滞在中に行われた政府代表団による NGO ブリーフィングにて、ユースへの経済的支援に係る質問が NGO 側から上がったが、外務省の方からは前向きなご返答をいただくことができなかったことも事実である。個々人が直面する経済的事情にかかわらず、参加を希望するすべてのユースが挑戦できる仕組みを整えるべく、自らの持ち場で声を上げつづけていきたい。

おわりに

以上、私の報告パートでは、（1）インターン応募の動機、（2）CSW68 での発見・学びの 2 つに分けて、今回の経験を経て会得した自らの考えを記載しました。今年の CSW に BPW よりインターンとして派遣していただいたことに加えて、日本政府代表団のユース代表を拝命したこの＜特権性＞を利活用したいという強い想いから、僭越ながら、現時点における自身の率直な見解を記しました。当初のインターン応募の目的が果たされたことに加え

---

[3] The Italian Society for International Organization. (2024). UNYDP - UN Youth Delegate Italy. https://www.sioi.org/attivita/eventi-speciali/unydp/?lang=en (Last accessed: 29 May, 2024).

て、国連組織が対峙する課題や、他国との比較の中で浮き彫りとなったジェンダー問題や若者の政治参画に対する日本政府の後ろ向きな姿勢を知ることができたという意味において、非常に貴重な経験となりました。CSW68 にて会得した経験をジェンダーに関する認識の世界をより深める糧とし、自らの次なる挑戦に繋げていく決意です。

最後になりますが、CSW68 への参加、パラレルイベントの開催に向けてお力添えくださった関係者のみなさまに重ねて心より御礼申し上げます。また、今回の CSW 参加のために、フィッシュファミリー財団による平松昌子メモリアル基金、BPW International、Japan ICU Foundation より経済的支援をいただきました。これらの支援なくして、本報告書で記した CSW68 での経験は決して得ることはできませんでした。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。そして、日本の女性のユースとして、ここまでの発言力を持つことができるようになったのは、理不尽に女性が虐げられる歪な社会構造の中で、過去から現在にかけて粘り強く声を上げつづけてくださった女性たちがいる（いた）からであると認識しています。そのお一人おひとりに心より敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。女性たちの不断の努力によって紡がれてきた脆く壊れやすい、しかし、侵されることを決して許そうとしない硬い芯が通った＜血と涙の結晶＞である、この＜バトン＞を引き続き、自らの持ち場で自分にできることを実践していく所存です。

3-3. 丸井　萌

神戸大学医学部医学科４年

はじめに

この度、BPW 連合会から、ニューヨーク国連本部で行われた CSW68 にインターンとして活動する機会をいただいたことに心より感謝申し上げます。政治経済を専攻している二人の同世代のインターンとともに活動することで自らの視野を広げ、新たな視点からジェンダーに関する課題に取り組むという貴重な経験をさせていただき、私の専門知識を超えた領域での学びが多くありました。国連職員の方や戦禍にあるパレスチナ、ウクライナ、そしてその周辺国で働く NGO の方、ナイジェリアから来た道端で医療を提供するプロジェクトを運営されている医療従事者、どれも国連に足を運ばなければ得ることの出来ない出会いであったと思います。

今回はここで最も印象的であった二点について記したいと思います。

（I）CSW68 参加のきっかけ

BPW 連合会がインターンを募集していることは初年度に派遣されたインターンでもあり、以前より大変お世話になっていた藤田典子専務理事を通じてお知らせいただいた。

当時留学中であった私は欧州と日本の働き方の違い、特に日本では慣習となっている、性による役割分担に多くの疑問を抱いていた。以前より公衆衛生の分野に興味があったのに加え、自分の専門分野以外の知見を広めるために各国のその道のエキスパートが集まる

場へ飛び込み、情報を得たいという一心で参加を決めた。

（2）CSW68での発見・学び

a）日本とは異なる社会保障制度・社会背景の国が抱える医療問題および性に関わる問題について

指導的立場にいる女性が出産に際して問題を抱えることは多い。医療従事者の中には、性差のために離籍もしくは休職せざるを得ない人も多い。保健機関で働く人の労働環境の格差に加え、患者の視点にたった場合にも医療格差が起こっている。例えば、研究のデータ召集の際、特に白人男性優位に研究が進められてきた。症候学では特にその傾向が強いという。性差のある疾患での検討も進んでいないという。

ニュージャージー州など特定の州では人種による医療格差が大きいところもある。医療システムは、この不平等を是正する方向には進んでおらず、どこに住むか、どのコミュニティに属するかに応じて受けられる医療が決定してしまう。妊娠した黒人女性の死亡率は白人の 7 倍も高い。そういった地域での性教育の促進に加え、人種に特化した臨床研究がなされるべきである。まずは医療の指導的立場としての黒人女性の数を増やし、白人のみが優遇され限定された医療システムを変えていくことが今求められている。

日本での統一された医療とは異なり、地域や人種による医療格差がある現状を初めて知った。米国の医療保険は single market と呼ばれ、保険サービスを受ける人と保険料金を払う人が一致しているという資本主義を象徴するシステムが成り立っている、日本や大勢の国々とは異なる体制をとっている中で、このような医療格差の問題がどのように対処されていくのか興味を持ち、さらに社会的マイノリティの力になれる医療者になりたいという思いを強く持った。来年2025年にはこのパラレルイベントでスピーカーをしていた方のいらっしゃる、ニュージャージー州の病院へ実習に向かう予定である。

b）戦禍にある国々やその周辺国からの悲痛な訴え

生存者のケアと復興のための取り組み

戦禍のなかでウクライナでは経済力のない女性への社会、経済的自立を助ける支援が求められている。戦時下にウクライナ女性の社会進出は進められており、1 万社の企業が設立されたことがその一例としてあげられ、こういった自立した女性に対する経済的支援が復興の鍵である。経済的支援の他に心理的支援の重要性が強調されていた。

ウクライナは女性の権利を保護するための資金援助を行い、UN Womenはウクライナの女性団体に対し、資金提供に加え衛生用品や薬の支援を行っている。現在解決を要する問題に今回の CSW68 のトピックになる女性や子どもへの家庭内暴力があげられた。警察の介入も戦時下で進んでおらず、侵攻の9か月の間に79件のケースが見られた。被害者は増加傾向にあり、包括的なケアが必要とされている。今の状態では家庭内暴力の定義もままならず、実態調査を進め正確な数を把握することが解決の第一歩である。

難民支援の現状

ポーランドは2022年から最も多くの難民を受け入れており、交通手段や宿泊施設がない難民がホームレスになるリスクが高まっている。基本的な必需品へのアクセスがないため、受ける支援に関わるジェンダー格差の拡大が懸念されている。ルーマニアでは滞在許可を得ていない 8 万人が国境で家族を待っており、この 2 年間で地元コミュニティに大きな変化があった。翻訳、物質的な援助、医療援助により、現地では難民支援に全力を尽くしているが、難民は増えるばかりで支援者側が疲弊しているという。支援する側への人的、資金的援助が十分ではないのではないか。

国際社会への提言

国連はウクライナ問題のために何もできなかったとの指摘があった。ウクライナにもっと軍事援助を提供すること、国連が主導して人道支援をすべきとの声がウクライナの市民団体よりあがっていた。

日本ではその地理的状況から移民受け入れについて論じられることは非常に少ないと思う。今戦禍にある国々がそう遠くない世界にあり、苦しい現状にある難民が多数いる状態で、無関心や無知でいるのではなく、自らの国が国際社会の中でどのように振る舞えばいいのか、何ができるか考え続けたいと強く思う。

CSWを通じて諸外国から集まった若い世代との対話、現地で活動しておられるNGOの方々との対話を通じて自らも、マイノリティとされる人々に貢献できるような医師になるべく研鑽をつむ意欲が一層高まった。ジェンダーに関する問題は世界中で根深いものであり、私たち若い世代がその解決に向けて積極的に取り組むことが重要であると痛感した。特に日本政府や市民社会におけるジェンダーへの認識の甘さ、国際社会の現状から切り離されていることについても深く考える機会となった。

おわりに

この経験は、一個人として私は何をすべきかを再考する重要なきっかけとなりました。医師としての将来的な役割に加えて社会的責任を果たすためには、ジェンダー平等や多様性の推進にも積極的に関与して行きたいと思います。

最後に CSW68 への参加、パラレルイベントの開催に尽力してくださった関係者の方々に心から感謝申し上げます。今回参加するにあたり、フィッシュファミリー財団より経済的支援をいただきましたこと、大変感謝しております。

この貴重な経験を活かし、インターン一同それぞれの道で社会に働きかけていきたいと思います。

4. 現地情報について

インターンとして渡航し、ニューヨークで約 2 週間生活するにあたって、自分たちが経験したことをお伝えします。来年以降インターンとなる方々、検討されている方々の参考になれば幸いです。

【生活編】
＜宿＞
リーダーズサミット期間中は、BPW 引率の藤田さんとご一緒させていただき、鈴木・宇佐と 3 名で 120E 39St の Tuscany by LuxUrban に宿泊した。Grand Central にほど近く、移動しやすい立地であった。

リーダーズサミット終了後は、丸井が合流し、国連目の前（302E 45thSt）の Airbnb 物件にインターン 3 名で帰国まで宿泊した。ダブルベット 1 つにソファベッド 1 つでキッチンやバス・お手洗い等も決して広くはなかったが、国連まで歩いて 1 分以内の立地は何にも代えがたいほど便利であった。各イベントの合間に帰宅しパラレルイベントの準備作業をしたり、食事を取ることができたりと大変便利であった。本 Airbnb は 10 月頃から抑えていたことも良かったように思う。他団体のユースの方々からは部屋の確保が大変だったという話もあったため、早めに抑えておくことをお勧めする。

＜食事＞
外食が高いことはもちろんだが、スーパーの食品も高く（食パン 8 枚入りで 1000 円近くしたことには驚いた）、さらに円安の影響もあったためインターンなりに工夫をして食事を取っていた。近くのスーパーは大変高かったため、後述する選択に合わせて Trader Joes に行くなど工夫をしていた。前述のように国連のほど近くに泊まっていたため、合間に気軽に帰宅し自炊をできたことは節約に役立った。

自炊以外では、BPW としての食事会も数回あり、インターン同士での外食、あるいは各々が作ったコネクションでの食事が入るなど、楽しむことができた。国連近くでは、宿泊先の 1 ブロック先にある “MONA Kitchen & Market” で、食事を作る時間がない場面、ランチでのカジュアルな打ち合わせ・会食等で食事をする事が多かった。国連から近く、比較的リーズナブルでもあったため大変助かった。

BPW メンバーの食事会

＜洗濯＞

宿泊していた Airbnb・国連付近にコインランドリーがなかったため、手洗いできるものは手荒いし持参の洗濯ばさみで干す、洗濯ものが溜まれば徒歩 20 分ほど北にいった“Miss Bubble Laundromat”（410E 59th St）に行くという方法で対応していた。

【観光編】

- 今年のスケジュールでは 4 回ある土曜日日曜日を観光に充てがうことができ、街へ繰り出した。ブルックリンや西側のチェルシー、west village などを散策した。The Museum of Modern Art は国連パスを提示すると無料で回れるのでおすすめ。またオペラやそのほかの芸術鑑賞も学生であればボックスで購入すると、割引もあり賢く鑑賞できるので活用すると良いと思う。（丸井）
- 天気が良い日には、<Vessel ➡ The High Line ➡ Little Island>のコースがおすすめ。ニューヨークの遊び心を感じることができる。（鈴木）
- 「9/11 Memorial & Museum」の訪問は欠かせない。（鈴木）
- Brooklyn と Manhattan をつなぐ橋「Brooklyn Bridge」から見た景色は忘れない。天気の良い日の日没の時間に赴くのがおすすめ。（鈴木）
- 夜景は新しくできた Summit がおすすめ。Empire State も見下ろせる高さで、屋内なので寒さもなく、インターン 3 人で訪れ楽しむことができた。Sunset の時間は人気でチケットが無くなりやすいため、事前の予約がおすすめ。（宇佐）

Summit からの眺め

3 人での記念写真

【交通編】

- 空港からホテルまでは、電車で移動した。昼間の移動であったため安全面に関しては特に問題なかったが、エレベーターが故障している場合もあり、重い荷物を持って階段を上り下りするのは大変だった。（鈴木）
- 移動手段に関して、アメリカ在住の友人からはニューヨークでは決して夜に一人で電車に乗らないように助言された。そのため、夜は Uber などで移動した。明るい

時間帯であれば、乗客が多い車両に乗れば、基本的には問題なかった。不審な人物／物と出くわした場合は、車両替えをするなど臨機応変に対応すると良い。（鈴木）

- 街中や電車では「pickpocket（いわゆる、スリ）」が多いと聞いていたので、貴重品はポケットには絶対に入れないこと／ひと目に触れない場所に保管することを徹底していた。ショルダーバックがあると便利。（鈴木）

【持ち物】

- 調味料（塩胡椒、出汁など）
- サランラップ、タッパー
- 数日間分のレトルト食品
    - 忙しく自炊が困難な日に役立つ
- スカーフ
    - 昼夜の温度差の対応に役立つ
- スリッパ
    - 宿内の移動に便利。裸足で歩いていると足の裏が真っ黒になる
- 現金
    - 主にクレジットカードを使用していたが、チップで現金が必要な場合もある
- マスク
    - 部屋が乾燥している場合もあるため
- 総合漢方薬、胃腸薬などの薬類

AIM
FOR AN
SDG

GIFT OF ITALY

STRONGER together
PEACE BEGINS WITH ME
VISITOR CENTRE
@VisitUN

HELLO KITTY
supports the SDGs!
Compassion will lead to the
achievement of 17 SDGs.

第 22 回 CSW インターン募集

2025 年国連女性の地位委員会(CSW 69)へ派遣する女性インターンを募集します

認定 NPO 法人日本 BPW 連合会は、国際問題に関心を持つ若い女性を対象に、毎年ニューヨークの国連本部で開催される女性の地位委員会(CSW)に派遣するインターンを募集します。

募集目的 国際問題・国連問題・ジェンダーの問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う女性を支援する目的で行われるもので、国連本部及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

CSW 69 の優先テーマ: The review and appraisal of the implementation of the Beijing Declaration and Platform for Action and the outcomes of the 23rd special session of the General Assembly.

期　間 CSW69 は、国連本部で現地時間 2025 年 3 月 10 日～21 日に開催されます。事前の登録手続きや BPW インターンの顔合わせなどの都合で、現地滞在は CSW 開会前々日から前半 1 週間を含む 10 日以上を推奨します。さらに他のイベント・プログラムに参加希望の場合は、早めの現地入りが必要になります。

6つの特典
- **「パラレル・イベント」**(NGO が主催するイベント) を**企画・運営し、世界の NGO と交流できます。**
- CSW 本会議と平行して行われる**様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べること**ができます。
- **国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けること**ができます。
- **日本政府代表部がおこなう NGO 参加者を対象とした公式説明会に参加**できます。
- **世界各国の女性団体の参加者と交流**できます。
- **国際関係・ジェンダーの問題を専攻する学生は、論文作成などのための最前線の資料を入手**できます。

※ さらに BPW に入会すると、**BPW International (IFBPW)** の会員ともなり、IFBPW **主催の各種活動** (CSW 開始前に実施されるリーダーズサミットやワークショップ、交流会など) **に参加**できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ 20 歳～35 歳の女性、若干名。パラレル・イベントの企画・運営、事前勉強会への参加、関係各所への表敬訪問、ニューヨークでは日本政府国連代表部のブリーフィングへの参加など、インターン活動を優先していただける方。帰国後は、報告書(日・英両言語で、活動写真含)を作成し日本 BPW 連合会に提出いただく他、BPW が企画するイベント(報告会・NWEC インターン報告・各地の BPW 活動)などに参加いただける方。

費　用 航空運賃・宿泊費・生活費は原則自己負担。海外旅行保険も自己負担になりますが、必ずご加入ください。また、NGO ブリーフィングのほか、有料イベントへの登録料も、原則各自負担になります。但し、BPW が行うイベント(交流会他)への参加費の一部は日本 BPW 連合会が負担します。

特別補助 **渡航・宿泊費に対し一人当たり 15 万円を上限に補助します。** (詳細はホームページ確認下さい) これは、フィッシュファミリー財団からの寄付「平松昌子メモリアル基金」により、支援が可能となるもので、2025 年までの限定となっています。

応募方法 E-mail にて、応募必要事項記載の上、小論文で応募動機および国際問題・ジェンダーの問題・国連に関するあなたの意見を日本語(1000 字前後)および英語(500words 以内)で述べ、添付・送信してください。
【応募メールへの必要記載事項及び必要添付書類は、必ずホームページをご確認の上応募ください】

応募・問合せ **csw2025@bpw-japan.jp**(日本 BPW 連合会インターン担当)件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 **2024 年 9 月 8 日(日) 24:00**

結果発表 **2024 年 10 月 8 日(火)** までにメールで連絡します
※ 選考にあたり、インタビュー(面談・オンライン)を行います。
また選考後、BPW の事業主旨にそぐわないと判断される場合は、派遣を取り消すこともあります。

その他 最新情報・募集要領・メールフォームは、下記 BPW のホームページにも掲載しますのでご参照ください

☆ CSW は United Nations Commission on the Status of Women の略。
1946 年、国連経済社会理事会(ECOCOC)の機能委員会の一つとして設置。年次会合は 3 週目の金曜日頃に合意結論が出て閉会する。

☆ 日本 BPW 連合会は、国連経済社会理事会から特殊協議資格を付与された国際 NGO です。
総合協議資格をもつ国際 NGO、BPW International (IFBPW)にも加盟しています。

CSW インターン派遣事業の詳細・最新情報は、
日本 BPW 連合会のホームページをご確認ください。

https://www.bpw-japan.jp/japanese/csw.html

認定 NPO 法人 日本 BPW 連合会　2024.7.1 発行（頒布価格 500 円）

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303
TEL 03-5304-7874　FAX 03-5304-7876
E-mail office@bpw-japan.jp　URL https://www.bpw-japan.jp